



IPファクス拡張キット

ユーザーズガイド



ご使用前に必ず本書をお読みください。
将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

JPN

本書の構成について

第 1 章 お使いになる前に

第 2 章 IP ファクスを送信する

第 3 章 IP ファクスの各種設定を変更する

第 4 章 トラブルシューティング

第 5 章 付録

* 本書に記載されている内容は、予告なく変更されることがあります。あらかじめ、ご了承ください。

* 本書に万一ご不審な点や誤り、または記載漏れなどお気づきのことがありましたら、ご連絡ください。

* 本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

* PDF 形式のマニュアルを表示するには、Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader が必要です。ご使用のシステムに Adobe Reader/Adobe Acrobat Reader がインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからダウンロードし、インストールしてください。

目次

本書の構成について	i
はじめに.....	iv
本書の読みかた	iv

第 1 章 お使いになる前に

IP ファクスとは	1-2
IP ファクスの特徴	1-2
IP ファクス / I ファクス / G3 ファクスの違い	1-3
必要なオプションと接続環境に応じた機器の準備	1-4
必要なオプション	1-4
接続環境に応じた機器の準備	1-5
IP ファクスを使用するために必要な本体の設定	1-9
設定の流れ	1-9
IP ファクス回線の設定をする	1-10
イントラネット内で送受信するための設定（イントラネット設定）	1-12
SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定する	1-17
新規ファクス宛先登録に URI を使用する	1-20
NGN マイナンバーを有効にする（NGN マイナンバー設定）	1-21
NGN 送受信を行うために必要な設定（NGN 設定）	1-22
IP ファクス（NGN）送信エラー時に自動的に G3 ファクスで送信する	1-27
G3 ファクス対応機と送受信するための設定（VoIP ゲートウェイ設定）	1-29
VoIP ゲートウェイの優先設定	1-33

第 2 章 IP ファクスを送信する

通信モードの設定について	2-2
通信モードの種類	2-2
使用できる宛先形式	2-3
IP ファクスの送信宛先を登録する	2-4
IP ファクスを送信する	2-10
アドレス帳に登録した宛先に IP ファクス送信する	2-10
新規に宛先を指定して IP ファクス送信する	2-12
コンピューターから IP ファクスを送信する	2-15

第3章 IP ファクスの各種設定を変更する

IP ファクス有効時に追加される設定／登録項目一覧	3-2
環境設定：ネットワーク	3-2
ファンクション設定：送信	3-8
宛先設定	3-9
IP ファクス有効時に設定できること	3-10
ファンクション設定：共通	3-10
ファンクション設定：送信	3-10
ファンクション設定：受信／転送	3-12
宛先設定：リモートアドレス帳公開設定	3-12
管理設定：ユーザー管理	3-12
管理設定：データ管理	3-12
設定情報のインポート／エクスポート	3-13
一括インポートが可能な項目一覧表：環境設定	3-14
アドレス帳のエクスポート／インポート	3-17

第4章 トラブルシューティング

終了コードを確認する	4-2
#1000 番台	4-2
#1300 番台	4-3
#1400 番台	4-3
#1500 番台	4-8
#1600 番台	4-9
エラーメッセージを確認する	4-10
レポートを確認する	4-11
ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート	4-11
ファクスマルチ送信結果レポート	4-12
ファクス受信結果レポート	4-12
ファクスボックス受信レポート	4-12
通信管理レポート	4-13
ファクス通信管理レポート	4-13
宛先表リスト	4-14

第5章 付録

仕様	5-2
----------	-----

はじめに

このたびは、IP ファクス拡張キットをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
IP ファクス拡張キットは、キヤノン製のネットワーク複合機（imageRUNNER ADVANCE シリーズ。以下、本体と呼びます）で IP ファクスを利用するためのオプションの拡張キットです。本製品の機能を十分に
ご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みくださ
い。また、お読みいただきました後も大切に保管してください。

重要

- IP ファクスを利用するためには、本製品のほかにスーパー G3FAX ボードが必要です。
- 本製品を利用するためには、ライセンスキーの取得、登録を行う必要があります。ライセンスキーの取得／登録方法についてはお使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

メモ

本書の記載は、あらかじめスーパー G3FAX ボードを装着し、IP ファクス拡張キットを有効にしていることを前提としています。

本書の読みかた

マークについて

本書では、操作上必ず守っていただきたい事項や操作の参考となる説明などに、下記のマークを付けています。

重要

操作上、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。

メモ

操作の参考となることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

キー・ボタンについて

本書では、デバイス上のキーやコンピューター画面上のボタンを次のように表記します。

- デバイスのタッチパネルディスプレイ上のボタン：[キー名称]

例： [アドレス帳]

[SIP 設定]

- デバイス上の操作パネルのキー：<キーアイコン>+（キー名称）

例： ⑨（設定／登録）

①～⑨（テンキー）

画面について

本書で使われているデバイスのタッチパネルディスプレイ、およびコンピューター操作画面は、お使いの機種や環境によって表示が異なる場合があります。操作時に押すキーおよびクリックするボタンの場合は、（丸）で囲んで表しています。また、操作を行うキーおよびボタンが複数表示されている場合は、それらをすべて囲んでいますので、ご利用に合わせて選択してください。

1 通信モードを選択



操作時に押すキー

商標について

本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

お使いになる前に

IP ファクスの特徴や必要なオプションなど、IP ファクスを使う前に知っておくべきことを説明しています。

IP ファクスとは	1-2
IP ファクスの特徴	1-2
IP ファクス／I ファクス／ G3 ファクスの違い	1-3
必要なオプションと接続環境に応じた機器の準備	1-4
必要なオプション	1-4
接続環境に応じた機器の準備	1-5
IP ファクスを使用するために必要な本体の設定	1-9
設定の流れ	1-9
IP ファクス回線の設定をする	1-10
イントラネット内で送受信するための設定（イントラネット設定）	1-12
SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定する	1-17
新規ファクス宛先登録に URI を使用する	1-20
NGN マイナンバーを有効にする（NGN マイナンバー設定）	1-21
NGN 送受信を行うために必要な設定（NGN 設定）	1-22
IP ファクス（NGN）送信エラー時に自動的に G3 ファクスで送信する	1-27
G3 ファクス対応機と送受信するための設定（VoIP ゲートウェイ設定）	1-29
VoIP ゲートウェイの優先設定	1-33

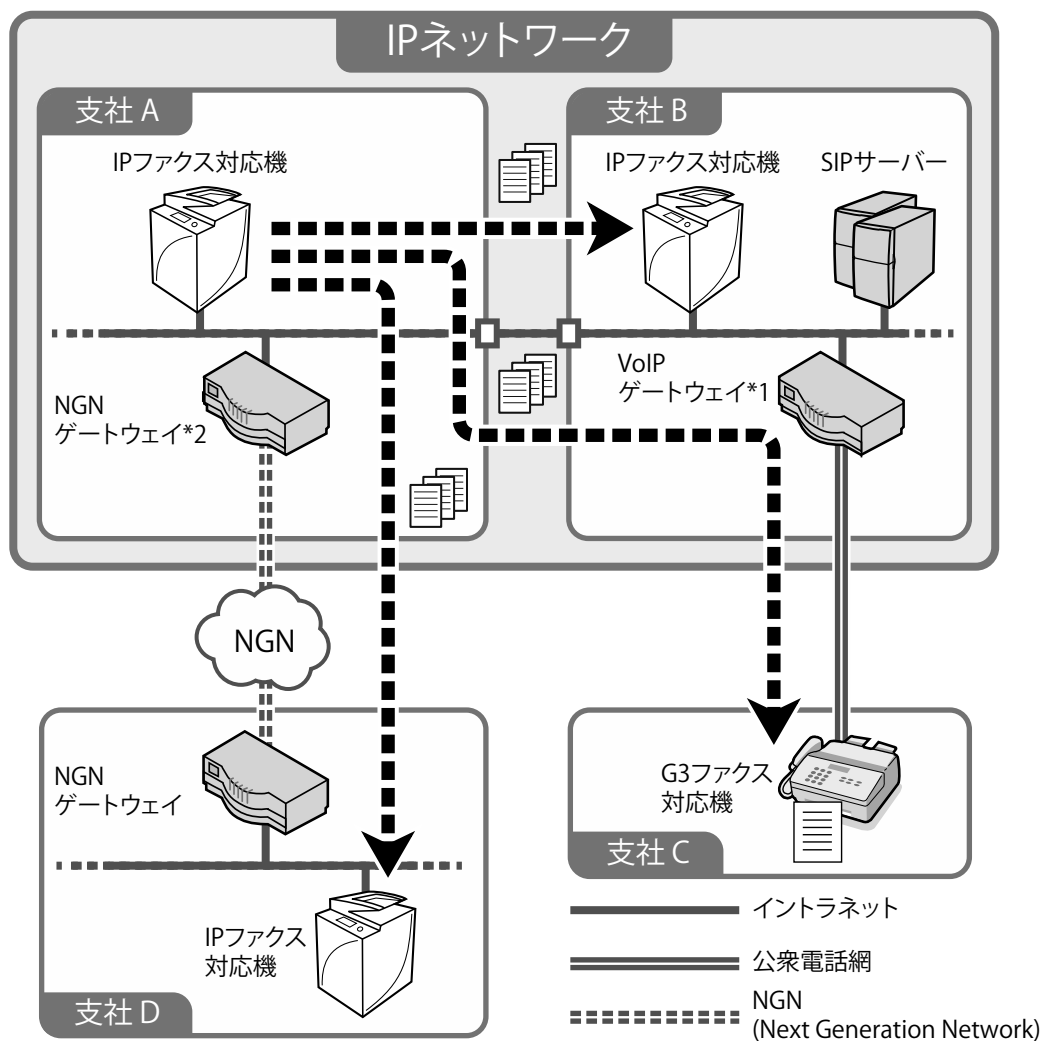
IP ファクスとは

IP ファクスの特徴

IP ファクスとは、IP ネットワーク上でデータを送受信するファクスのことです。電話回線を利用する通常のファクスと同様にリアルタイムな通信ができるのに加え、高速に通信できる、通信コストが抑えられるなど、通常のファクスにはない様々なメリットがあります。

IP ファクスを利用するには、IP ネットワーク上の機器同士が IP ファクスに対応している必要がありますが、IP ネットワークと電話回線の間を VoIP ゲートウェイ^{*1} という機器で中継すれば、電話回線に接続されている G3 ファクス対応機とも送受信することができます。また、NGN ゲートウェイ^{*2} という機器で中継すれば、NGN (Next Generation Network) を利用することもできます。

接続環境のイメージ図



メモ

本製品の IP ファクスは、ITU-T の勧告する通信プロトコル (T.38) を使用しています。

IP ファクス／I ファクス／ G3 ファクスの違い

IP ファクスと同様に IP ネットワークを使用して通信するファクスには、もう 1 つ「I ファクス（インターネットファクス／イントラネットファクス）」があります。imageRUNNER ADVANCE シリーズの複合機における、IP ファクス／I ファクス（インターネットファクス／イントラネットファクス）／ G3 ファクスについて、それぞれの特徴を表にまとめると以下のようになります。

○：使用可能 ×：使用不可

	IP ファクス	I ファクス		G3 ファクス
		インターネットファクス	イントラネットファクス	
リアルタイム通信 ^{*1}	○	×	×	○
G3 ファクス対応機との送受信	○ (VoIP ゲートウェイ経由)	×	×	○
通信コスト	ネットワーク使用料のみ ^{*2}	ネットワーク使用料のみ	ネットワーク使用料のみ	距離／時間に 応じた従量課金
メールサーバー	不要	必要	不要 (ダイレクト SMTP)	不要
宛先の形式	ファクス番号 など ^{*3}	メールアドレス	< 任意文字列 > @ IP アドレス	ファクス番号
リモートファクス ^{*4}	○	×	×	○

^{*1} 通信する機器どうしが用紙サイズや解像度などの情報を直接やり取りする、即時性のある通信のことです。

^{*2} G3 ファクス対応機に送信する場合、VoIP ゲートウェイから相手先までの区間の通信コストが発生します。また、NGN を使用して IP ファクス対応機に送信する場合、NGN 使用区間の通信コストが発生します（どちらも距離／時間に
応じた従量課金）。

^{*3} 接続環境により、宛先の形式は異なります。詳細は、「通信モードの設定について」（→ P. 2-2）を参照してください。

^{*4} リモートファクスとは、ファクス環境のない複合機から、ファクス環境のある複合機を経由してファクスを送受信する機能です。詳細についてはお使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

メモ

- IP ファクスを使用して、他のキヤノン複合機の I ファクスと通信はできません。I ファクスの詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。
- イントラネットファクスはキヤノン独自機能です。

必要なオプションと接続環境に応じた機器の準備

必要なオプション

IP ファクスを使用するには、本体に以下のオプションが必要です。

IP ファクス拡張キット（本製品）

IP ファクス拡張キットを有効にすると、ファクス画面や設定／登録に項目が追加され、IP ファクスを使用できるようになります。なお、IP ファクス拡張キットを有効にするには、ライセンスキーの取得／登録が必要です。詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

重要

- リモートアドレス帳のサーバー機として使用できなくなります。（→宛先設定：リモートアドレス帳公開設定：P. 3-12）
- 一部の設定／登録で設定可能な項目が変更になります。（→ IP ファクス有効時に追加される設定／登録項目一覧：P. 3-2）

スーパー G3FAX ボード

IP ファクスを使用するには、スーパー G3FAX ボードが必要です。IP ファクス拡張キット（本製品）だけでは、IP ファクスを使用できません。

重要

- IP ファクスをお使いになる場合は、G3 増設回線用ボードを装着することはできません。
- IP ファクスをお使いになる場合は、G4 FAX ボードを装着することはできません。

メモ

スーパー G3FAX ボードは、本体に標準装備されている場合があります。

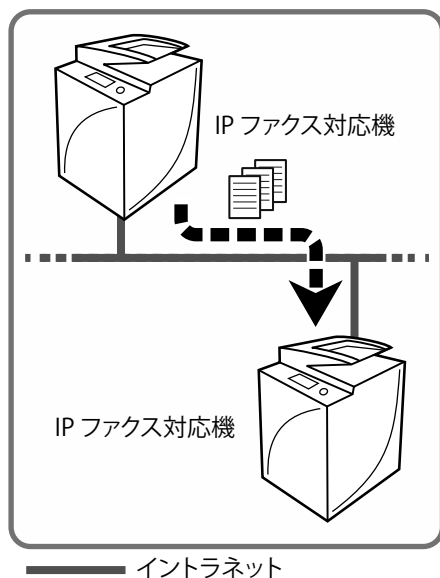
接続環境に応じた機器の準備

IP ファクスを使用するには、接続環境に応じて別途機器を準備する必要があります。

IP ファクスを使用するために必要なオプションについては、「必要なオプション」(→ P.1-4) を参照してください。

イントラネット内送受信

イントラネット環境で IP ファクスを使うだけなら、特別な機器は必要ありません。通信する機器同士が IP ファクスに対応していれば、IP ファクスを送受信することができます。宛先の指定には URI アドレスを使用します。



メモ

URI アドレスとは、ネットワーク上の住所にあたる情報のことで、ネットワークに接続された機器がそれぞれ個別に持っています。IP ファクスでは、SIP URI という形式を使用します。

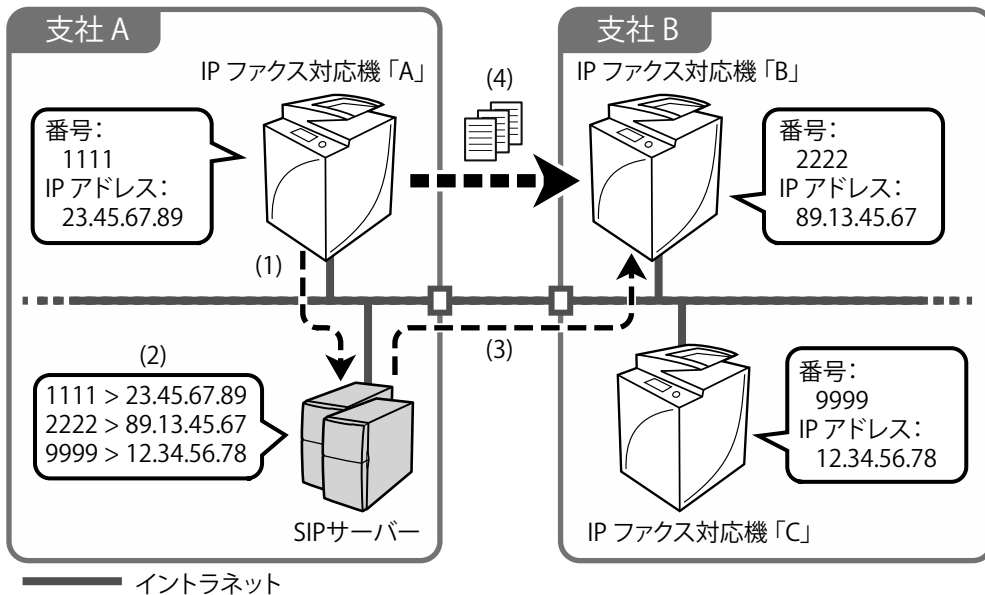
イントラネット内送受信（SIP サーバー使用）

SIP サーバーとは、SIP（Session Initiation Protocol）と呼ばれるプロトコルを使った通信において、通信相手との接続を確立したり、宛先となる通信相手の情報を集中管理したりするサーバーのことです。

SIP サーバーを導入すると、宛先となる内線番号などの任意の番号と、機器（IP ファクス対応機）の IP アドレスとを関連付けてくれるので、IP アドレスではなく、通常の G3 ファクスと同じように番号で宛先を指定できます。また、機器の追加や IP アドレスの変更などの管理も容易になります。

メモ

SIP サーバーには、あらかじめ IP ファクスの送受信で使用する本体の情報を登録しておいてください。



- (1) SIP サーバーに機器「B」の情報を問い合わせる。
- (2) 機器「B」の宛先の番号を IP アドレスに変換する。
- (3) 機器「B」を呼び出して、機器「A」と機器「B」との接続を確立する。
- (4) IP ファクスでデータを送信する。

• 対応している SIP サーバー

- Cisco Unified Communication Manager Version 7.1*
- Cisco Unified Communication Manager Version 8.5*

* Cisco 製の SIP サーバーを使用する場合は、以下に対応していません。

- SSL および IPv6 での通信
- T.38 メディア通信の TCP
- T.38 メディアタイプの image 以外

重要

Cisco 製の SIP サーバーを使用している場合、本体のスリープモードを設定していても、完全なスリープモードに移行しないことがあります。

NGN 送受信

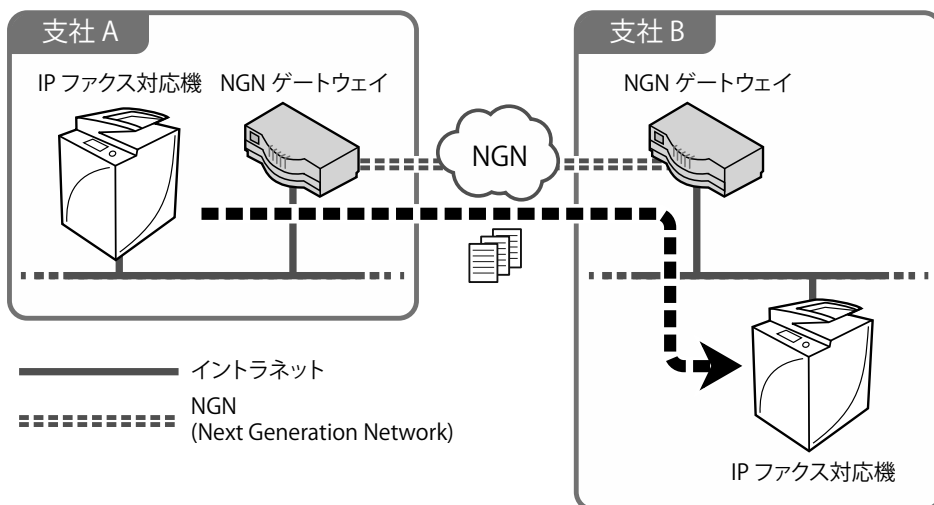
NGN（Next Generation Network）とは、インターネットと公衆電話回線網を統合した IP ネットワークです。NGN を利用すると、イントラネットの外にある IP ファクス対応機と IP ファクスを送受信できます。ネットワークが混雑していても、通信がつながらなくなったり遅くなったりすることがない、SSL などの暗号化をしなくても盗聴・改ざんされる危険性がないなどのメリットがあります。

NGN を利用するには、NTT の提供する「フレッツ光ネクスト」の回線契約と、NGN ゲートウェイが必要です。NGN ゲートウェイは、NGN 加入時に NTT から提供される宅内機器です。ルーター機能や認証機能を持っています。

また、「NGN マイナンバー設定」を有効にすると 1 本の電話回線に 2 つのファクス番号を持たせ、2 回線接続した場合と同じように使用できます。NGN マイナンバーを利用するには、電話会社と契約をする必要があります。

メモ

- NGN ゲートウェイには、あらかじめ IP ファクスの送受信で使用する本体の情報を登録しておいてください。
- 主契約番号での送受信と追加番号での送受信を同時に行うことはできません。



重要

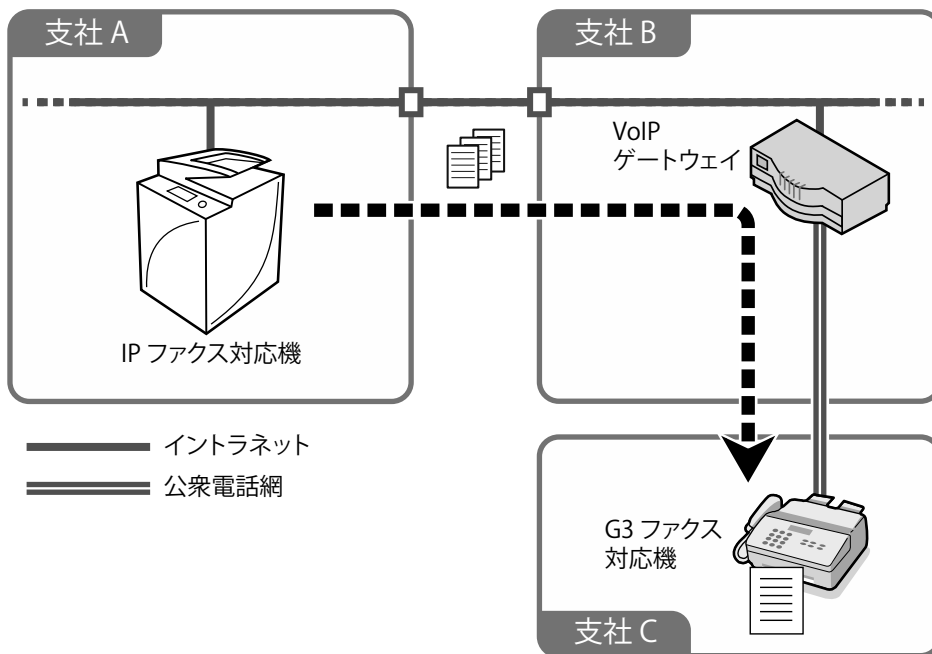
NGN 使用時は、本体のスリープモードを設定していても、完全なスリープモードに移行しないことがあります。

G3 ファクス対応機との送受信（VoIP ゲートウェイ経由）

VoIP（Voice over Internet Protocol）ゲートウェイとは、IP ネットワークと電話回線との間を中継する機器のことで、アナログ音声データ（T.30）とデジタル IP パケット（T.38）を相互に変換する役割を担っています。VoIP ゲートウェイを導入することで、IP ファクス対応機から G3 ファクス対応機への送信が可能となります。

メモ

VoIP ゲートウェイには、あらかじめ IP ファクスの送受信で使用するファクス番号を登録しておいてください。



- 対応している VoIP ゲートウェイ
 - Cisco 2901+Ver.15.1(4) M3 VoIP GW*
 - Cisco 2801+Ver.15.1(4) M1 VoIP GW*

* Cisco 製の VoIP ゲートウェイを使用する場合、SSL および IPv6 での通信はできません。

IP ファクスを使用するために必要な本体の設定

設定の流れ

IP ファクスを使用するためには、以下の設定が必要です。

1.

ネットワークへの接続を行う

設定方法は、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

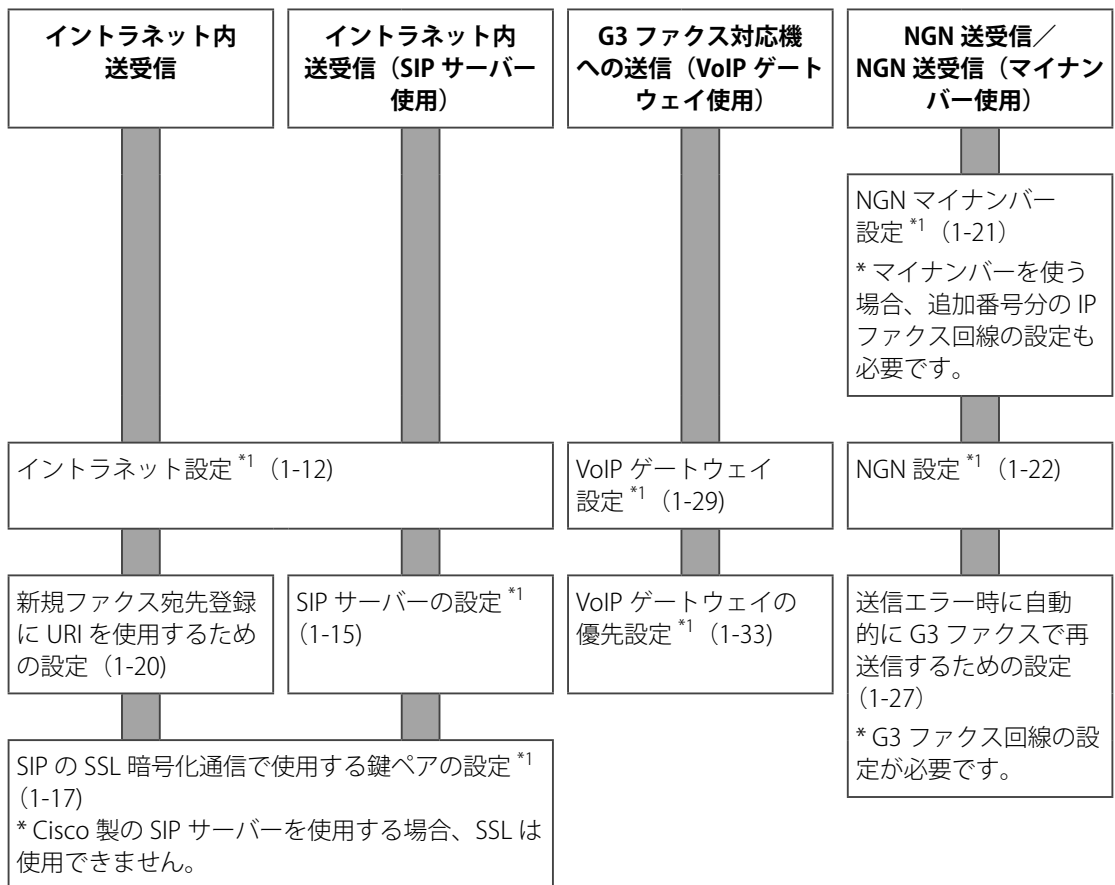
2.

IP ファクス回線の設定 (1-10)

3.

接続環境の設定

お使いの接続環境や目的に応じて、以下の項目を設定してください。



*1 設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。

IP ファクス回線の設定をする

IP ファクス回線のユーザー電話番号とユーザー略称を登録します。

登録したユーザー電話番号とユーザー略称は、原稿を送信したとき、発信元記録として相手先に表示／プリントされます。ユーザー略称には、会社や部署の名称などを登録すると便利です。

[NGN マイナンバー設定] を有効にしている場合、ユーザー電話番号とユーザー略称は追加番号にも登録できます。

1.

Ⓢ (設定／登録) を押す

2.

[ファンクション設定] → [送信] → [ファクス設定] を押す

3.

[回線設定] → [IP ファクス 1] を押す

追加番号を設定する場合は、[回線設定] を押した後、[IP ファクス 2] を選択します。

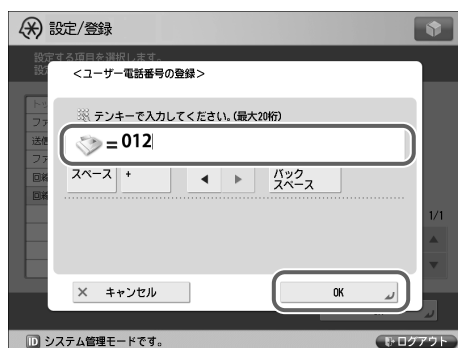
メモ

[IP ファクス 2] は、[NGN マイナンバー設定] を「ON」にすると選択可能になります。(→ NGN マイナンバーを有効にする (NGN マイナンバー設定) : P. 1-21)

ユーザー電話番号を登録する場合：

☐ [ユーザー電話番号の登録] を押す

☐ IP ファクスで使う自機の番号を入力→ [OK] を押す



ユーザー略称を登録する場合：

- ☐ [ユーザー略称の登録] を押す
- ☐ 名称を入力→ [OK] を押す

<ユーザー略称の登録(半角24文字/全角12文字まで)>

テンキーでも入力できます。

user1

バックスペース 英字

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 - ^ ¥

q w e r t y u i o p @ []

a s d f g h j k l ; : ' " < > , . / ¥

シフト スペース

× キャンセル OK

ID システム管理モードです。 ログアウト

メモ

ユーザー略称の代わりに発信人の名称を表示／プリントする場合は、ファクス画面の[その他の機能]の[発信人]で設定を行います。詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

イントラネット内で送受信するための設定（イントラネット設定）

イントラネット内の IP ファクス機と送受信するためには、次の設定が必要です。

- 本体の SIP 情報の設定
- SIP サーバーの設定（SIP サーバーを使用する場合）

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

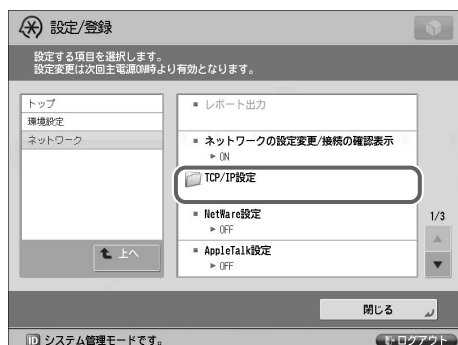
- システム管理者（システム管理部門 ID）
- システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）
- ネットワークアドミニストレーター/NetworkAdmin（SSO-H 使用時）

1.

Ⓢ（設定／登録）を押す

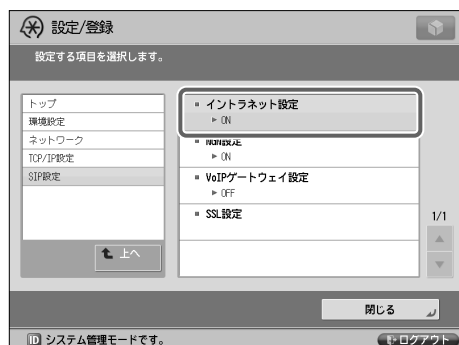
2.

[環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] を押す



3.

[SIP 設定] → [イントラネット設定] を押す



4.

< イン트라ネットを使用 > の [ON] を押す→各項目を設定する

本体 URI	使用する接続環境に応じて、以下のように設定してください。 • イン트라ネット内送受信： sip:^{*1}《本体の IP アドレス》 • イン트라ネット内送受信 (SIP サーバー使用)： sip:^{*1}《本体の SIP 番号》^{*2}@《SIP サーバーの IP アドレス》
SIP 受信ポート番号	SIP 通信を待ち受けるポート番号を指定します。
SIP 発信トランスポート	SIP セッションを確立するためのプロトコルを選択します。
SSL を使用	SIP 通信で SSL を使用する場合は [ON] を選択します。

*1 SSL を使用する場合は「sips:」としてください。

*2 SIP 番号とは、SIP サーバーに IP アドレスと関連付けて登録する番号のことです。この SIP 番号が、他機から本体に向けて IP ファクスを送信する場合の宛先になります。たとえば内線番号など、他機と重複しない任意の番号を指定してください。

重要

- SSL を使用する場合は、SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアの設定が必要です。(→ SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定する：P. 1-17)
- Cisco 製の VoIP ゲートウェイまたは SIP サーバーを使用する場合、SSL および IPv6 での通信はできません。

5.

SIP サーバーの設定をする

SIP サーバーを使用する場合は、SIP サーバーの設定が必要です。設定手順については「SIP サーバーの設定」(→ P. 1-15) を参照してください。

SIP サーバーを使用しない場合は、この手順は不要です。次の手順に進んでください。

6.

[メディア (T.38) 設定] を押す

設定/登録

<イントラネット設定>

・ イン트라ネットを使用 ☐ ON ☐ OFF

本体URL

・ SIP受信ポート番号 テンキーで入力してください。
(1~65535)

・ SIP発信トランスポート

・ SSLを使用 ☐ ON ☐ OFF

SIPサーバー設定

キャンセル OK

ID システム管理モードです。 ログアウト

7.

各項目を設定→ [OK] を押す

設定/登録

<メディア (T.38) 設定>

・ T.38発信トランスポート

・ T.38メディアタイプ

・ T.38受信ポート番号 テンキーで入力してください。
(1~65535)

・ RTP受信ポート番号 テンキーで入力してください。
(1024~65534)

キャンセル OK

ID システム管理モードです。 ログアウト

T.38 発信トランスポート	SIP セッション確立後、データの送受信に使用するプロトコルを選択します。 Cisco 製の SIP サーバーを使用する場合は、[UDPTL]に設定してください。
T.38 メディアタイプ	SIP セッション確立後、データの送受信に使用するメディアストリームの種類を選択します。 Cisco 製の SIP サーバーを使用する場合は、[image] に設定してください。
T.38 受信ポート番号	T.38 の受信ポート番号を指定します。
RTP 受信ポート番号	RTP の受信ポート番号を指定します。

8.

[OK] を押す

SIP サーバーの設定

SIP サーバーを使用してイントラネット内の IP ファクス対応機と送受信する場合、SIP サーバーの設定が必要です。

重要

SIP サーバーの設定は、「イントラネット設定」の中で行います。SIP サーバーの設定をする場合は、先に「イントラネット内で送受信するための設定（イントラネット設定）」（→ P. 1-12）を参照してください。

1.

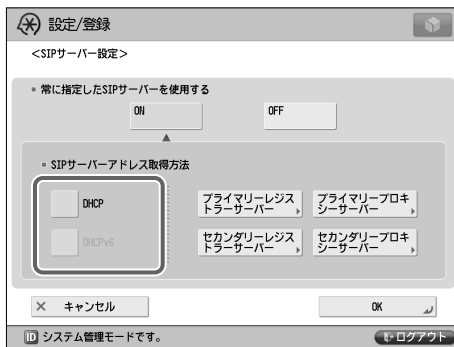
「SIP サーバー設定」を押す→「常に指定した SIP サーバーを使用する」の「ON」を押す



2.

「[DHCP] または [DHCPv6]」を押す

SIP サーバーのサーバーアドレスを手動で入力する場合は、この手順は不要です。手順 3 に進んでください。



メモ

Cisco 製の SIP サーバーを使用する場合は、「[DHCP]」を選択してください。「[DHCPv6]」は使用できません。

3.

[プライマリーレジストラーサーバー] / [プライマリープロキシーサーバー] / [セカンダリーレジストラーサーバー] / [セカンダリープロキシーサーバー] のいずれかを選択する

4.

各項目を入力して [OK] → [OK] を押す

サーバーアドレス	SIP サーバーのサーバーアドレスを指定します。 手順 2 で [DHCP] または [DHCPv6] を選択した場合、SIP サーバーのアドレスは自動的に取得されます。
ポート番号	SIP サーバーのポート番号を指定します。
ユーザー名	認証のためのユーザー名を指定します。 SIP サーバーに接続する際に使用します。
パスワード	認証のためのパスワードを指定します。 SIP サーバーに接続する際に使用します。

メモ	
1 つの SIP サーバーが、レジストラーサーバーとプロキシーサーバーの役割を同時に担っている場合があります。その場合、[サーバーアドレス] は同じものを指定してください。	

5.

[OK] を押す

SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定する

SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定します。

重要

Cisco 製の SIP サーバーを使用する場合、SSL は使用できません。

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

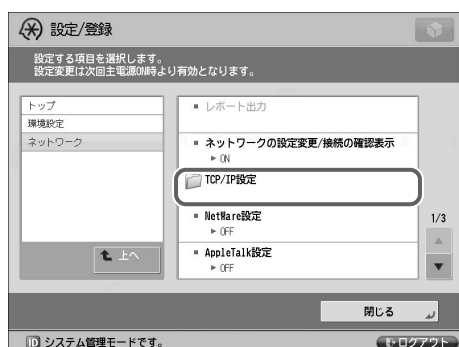
- システム管理者（システム管理部門 ID）
- システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）
- ネットワークアドミニストレーター /NetworkAdmin（SSO-H 使用時）

1.

Ⓢ（設定／登録）を押す

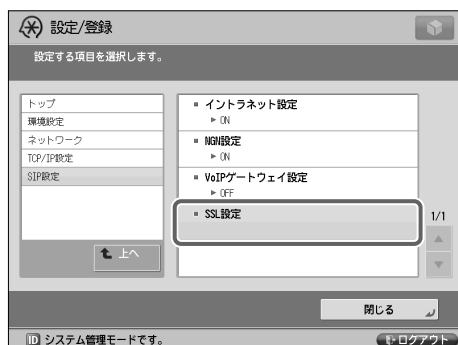
2.

[環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] を押す



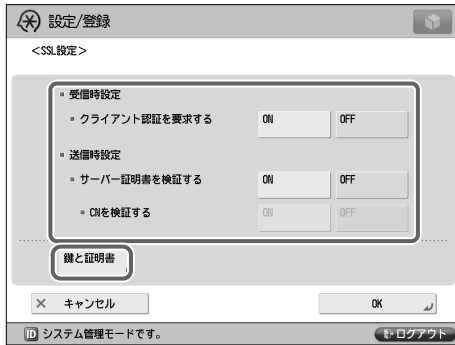
3.

[SIP 設定] → [SSL 設定] を押す



4.

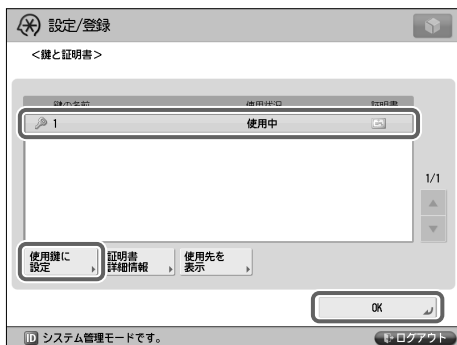
< 受信時設定 > と < 送信時設定 > の各項目を設定→ [鍵と証明書] を押す



受信時設定	
クライアント認証を要求する	[ON] または [OFF] を選択します。 [ON] を選択すると、IP ファクス受信時にクライアント認証を要求します。
送信時設定	
サーバー証明書を検証する	[ON] または [OFF] を選択します。 [ON] を選択すると、IP ファクス送信時に、SSL サーバー証明書が正規のものであるかどうかの確認をします。
CN を検証する	[ON] または [OFF] を選択します。 [ON] を選択すると、IP ファクス送信時に CN (Common Name) を確認します。

5.

SIP の SSL 暗号化通信に使用したい鍵ペアを選択→ [使用鍵に設定] → [OK] を押す



メモ

- 使用状況が「使用中」の場合は、選択できません。
- [証明書詳細情報] を押すと、証明書の詳細情報を確認できます。
- [使用先を表示] を押すと、使用中の鍵ペアの用途を確認できます。

6.

[OK] を押す

新規ファクス宛先登録に URI を使用する

SIP サーバーを使わずにイントラネット内送受信を行う場合、宛先の指定には URI アドレスを使用します。IP ファクス宛先に URI アドレスを使用するためには、あらかじめアドレス帳かワンタッチに宛先を登録しておく必要があります。

本設定を ON に設定することで、URI アドレスを指定して宛先を登録できるようになります。

メモ

- 宛先を登録する方法については、「IP ファクスの送信宛先を登録する」(→ P. 2-4) を参照してください。
- この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。
 - システム管理者 (システム管理部門 ID)
 - システムアドミニストレーター / Administrator (SSO-H 使用時)
 - ネットワークアドミニストレーター / NetworkAdmin (SSO-H 使用時)
 - デバイスアドミニストレーター / DeviceAdmin (SSO-H 使用時)

1.

⊙ (設定／登録) を押す

2.

[宛先設定] → [新規ファクス宛先登録に URI を使用] を押す

3.

[ON] → [OK] を押す

新規ファクス番号を宛先に登録するときに、URI を使用しない場合は、[OFF] を押します。

NGN マイナンバーを有効にする（NGN マイナンバー設定）

NGN マイナンバーを使用すると、1本の電話回線に2つのファクス番号を持たせ、主契約番号と追加番号を使い分けることができます。

追加番号で NGN 送受信を行うときは、本設定を「ON」にしてください。

重要

NGN マイナンバーを利用するには、電話会社とマイナンバーの契約をする必要があります。

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- システム管理者（システム管理部門 ID）
- システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）
- デバイスアドミニストレーター /DeviceAdmin（SSO-H 使用時）

1.

⊙（設定／登録）を押す

2.

[ファンクション設定] → [送信] → [ファクス設定] を押す

3.

[NGN マイナンバー設定] を押す

4.

[ON] → [OK] を押す

メモ

本設定を「ON」にしたあと、追加番号の回線設定も行ってください。（→ IP ファクス回線の設定をする：P. 1-10）

NGN 送受信を行うために必要な設定（NGN 設定）

NGN に接続された IP ファクス対応機と送受信を行うためには、以下の設定が必要です。

- 本体の SIP 情報
- NGN ゲートウェイの設定
- 使用する帯域幅や回線情報の設定

重要

追加番号で IP ファクスを送信するためには、本設定のほかにマイナンバーの設定が必要です。「NGN マイナンバーを有効にする（NGN マイナンバー設定）」（→ P. 1-21）を参照してください。

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

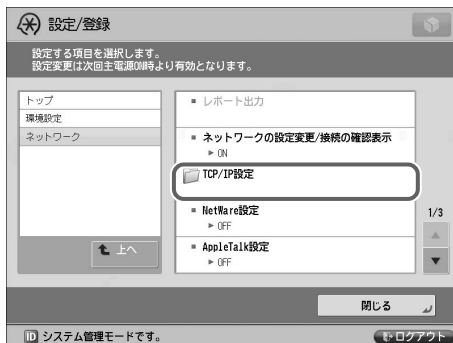
- システム管理者（システム管理部門 ID）
- システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）
- ネットワークアドミニストレーター/NetworkAdmin（SSO-H 使用時）

1.

Ⓢ（設定／登録）を押す

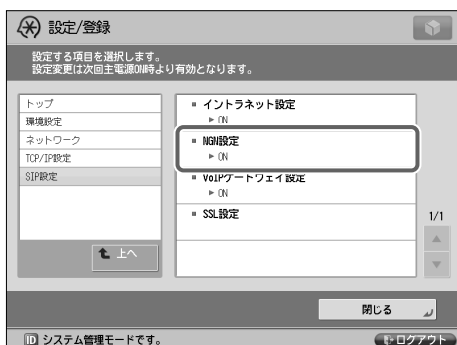
2.

〔環境設定〕 → 〔ネットワーク〕 → 〔TCP/IP 設定〕 を押す



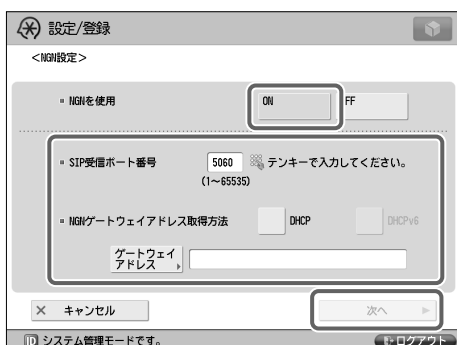
3.

[SIP 設定] → [NGN 設定] を押す



4.

<NGN を使用> の [ON] を選択→各項目を設定→ [次へ] を押す



SIP 受信ポート番号	SIP 通信を待ち受けるポート番号を指定します。
NGN ゲートウェイアドレス取得方法	NGN ゲートウェイの IP アドレスを自動で取得する場合、[DHCP] か [DHCPv6] のいずれかを選択します。
ゲートウェイアドレス	NGN ゲートウェイの IP アドレスを手動で指定する場合に入力します。

5.

次の項目を設定する



最大使用帯域幅	NGN の SIP セッションで確保する帯域幅を選択します。
発信者 ID 通知を使用	自機のファクス番号を相手先に通知するかどうかを選択します。

6.

[回線情報設定] を押す



7.

各項目を設定→ [OK] を押す

回線情報の自動取得	デフォルトではONになっています。回線情報を手動で設定する場合はOFFにします。
外線番号 1 / 外線番号 2	本体の外線番号を入力します。 通信モードで [IP ファクス (NGN マイナンバー)] を選択した場合は、〈外線番号 2〉に登録されている番号を使用して送信します。
内線番号	本体の内線番号を入力します。 内線ファクスを使用する場合に入力します。
ドメイン名	契約している回線のドメイン名を入力します。ドメイン名は管理者に確認してください。
ゲートウェイ接続ポート	NGN ゲートウェイが通信を待ち受けるポート番号を指定します。
ユーザー名	認証時に使用するユーザー名を設定します。 NGN ゲートウェイに接続する際に使用します。
パスワード	認証時に使用するパスワードを設定します。 NGN ゲートウェイに接続する際に使用します。

8.

[メディア (T.38) 設定] を押す

9.

各項目を設定→ [OK] を押す



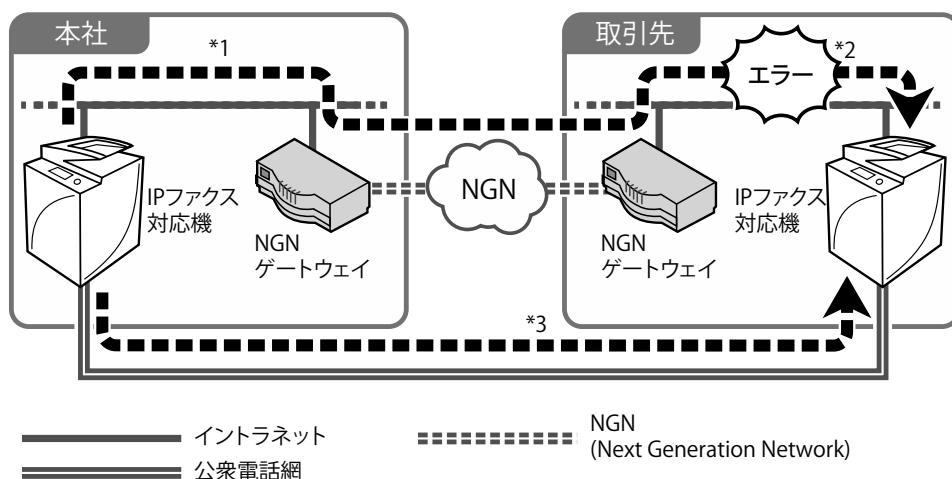
T.38 メディアタイプ	SIP セッション確立後、データの送受信に使用するメディアストリームの種類を選択します。 Cisco 製の NGN ゲートウェイを使用する場合は、[image] に設定してください。
T.38 受信ポート番号	T.38 の受信ポート番号を指定します。

10.

[OK] を押す

IP ファクス（NGN）送信エラー時に自動的に G3 ファクスで送信する

NGN を経由して送信した IP ファクス^{*1} が何らかの原因でエラーになったとき^{*2}、自動的に G3 ファクスで再送信^{*3} するように設定できます。



メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- システム管理者（システム管理部門 ID）
- システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）
- デバイスアドミニストレーター /DeviceAdmin（SSO-H 使用時）

1.

Ⓢ（設定／登録）を押す

2.

[ファンクション設定] → [送信] → [ファクス設定] を押す

3.

[IP ファクス (NGN) 送信エラー時に G3 で送信] を押す

4.

[ON] → [OK] を押す

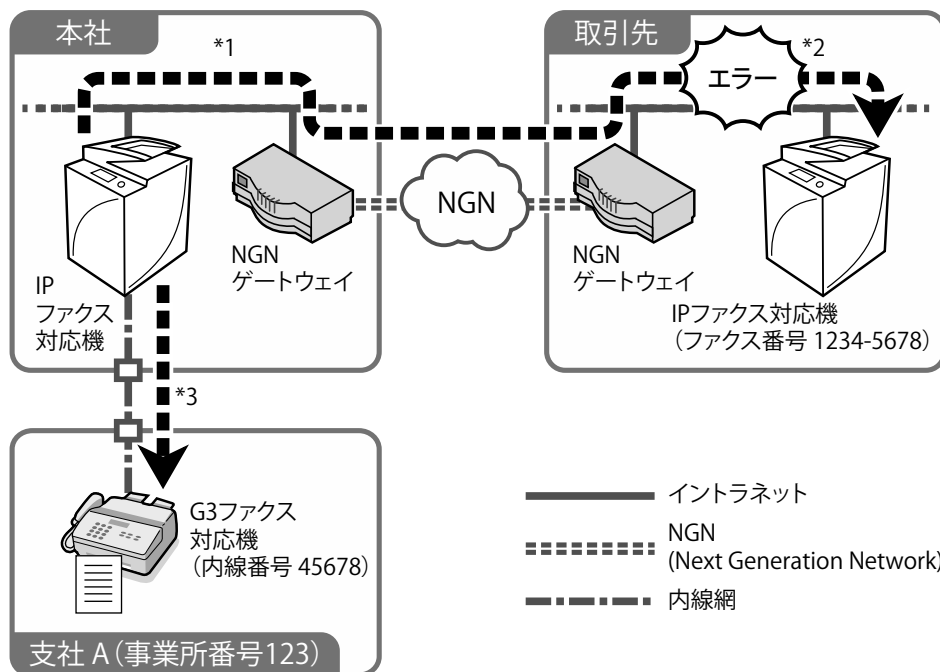
NGN を使用して送信した IP ファクスがエラーになったとき、自動的に G3 ファクスで再送信しない場合は、[OFF] を押します。

重要

本設定は、G3 ファクスを外線に接続して使用している場合にのみ「ON」に設定してください。G3 ファクスが内線に接続されていると、たとえば以下のようなケースでは、意図しない宛先に送信されてしまうため、必ず外線に接続されていることを事前確認してください。

市内の宛先「1234-5678」に IP ファクスを送信します。

1. 宛先に「12345678」を指定し、NGN を使用して送信^{*1}。
2. 何らかの原因でエラーが発生^{*2}。
3. G3 ファクスを内線に接続して使用していて、本設定が「ON」に設定されている場合、内線ファクスとして再送信される。
4. 宛先に指定したファクス番号と、偶然一致する内線番号「123-45678」が存在した場合、意図しない宛先に送信される^{*3}。



G3 ファクス対応機と送受信するための設定 (VoIP ゲートウェイ設定)

VoIP ゲートウェイを経由し、公衆電話網にある G3 ファクス機と送受信するためには、本体の SIP 情報や使用する VoIP ゲートウェイの設定が必要です。

重要

VoIP ゲートウェイを使用するためには、本設定のほかに、接続する VoIP ゲートウェイの優先順位の設定が必要です。「VoIP ゲートウェイの優先設定」(→ P. 1-33) を参照してください。

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

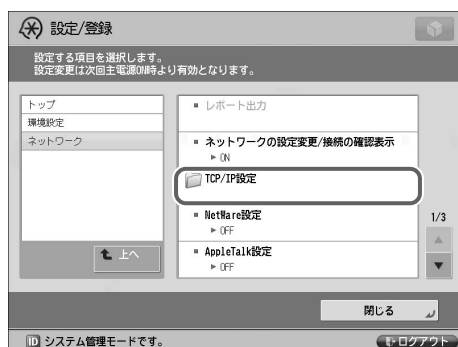
- システム管理者 (システム管理部門 ID)
- システムアドミニストレーター/Administrator (SSO-H 使用時)
- ネットワークアドミニストレーター /NetworkAdmin (SSO-H 使用時)

1.

Ⓢ (設定／登録) を押す

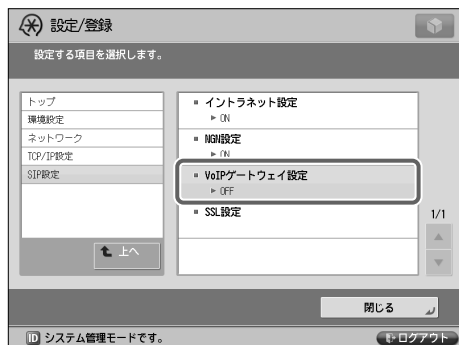
2.

[環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] を押す



3.

[SIP 設定] → [VoIP ゲートウェイ設定] を押す



4.

<VoIP ゲートウェイを使用> の [ON] を選択→各項目を設定する



本体 URI	以下のように設定してください。 sip: 《IP ファクスで使用するファクス番号》*1 @ 《本体の IP アドレス》
SIP 受信ポート 番号	SIP 通信を待ち受けるポート番号を指定します。
SIP 発信トランスポート	SIP セッションを確立するためのプロトコルを選択します。

*1 ここで指定したファクス番号が、G3 ファクスと送受信を行う場合の本体の番号になります。ファクス番号は、あらかじめ VoIP ゲートウェイに登録しておいてください。

5.

[VoIP ゲートウェイの登録] を押す

6.

[登録] を押す→各項目を設定→ [OK] → [OK] を押す



接続先	VoIP ゲートウェイの名称を指定します。
IP アドレス	VoIP ゲートウェイの IP アドレスを入力します。
ポート番号	VoIP ゲートウェイのポート番号を指定します。

メモ	
最大 50 個の VoIP ゲートウェイが登録できます。	

7.

[メディア (T.38) 設定] を押す

設定/登録

<VoIPゲートウェイ設定>

VoIPゲートウェイを使用 ☐ ON ☐ OFF

本体URL

SIP受信ポート番号 テンキーで入力してください。
(1~65535)

SIP発信トランスポート ☐ UDP ☐ TCP

VoIPゲートウェイの登録

ID システム管理モードです。

8.

各項目を設定→ [OK] を押す

設定/登録

<VoIPゲートウェイ設定>

<メディア (T.38) 設定>

T.38発信トランスポート ☐ UDPTL

T.38メディアタイプ ☐ image

T.38受信ポート番号
(1~65535)

RTP受信ポート番号
(1024~65534)

ID システム管理モードです。

T.38 受信ポート番号	T.38 の受信ポート番号を指定します。
--------------	----------------------

RTP 受信ポート番号	RTP の受信ポート番号を指定します。
-------------	---------------------

9.

[OK] を押す

VoIP ゲートウェイの優先設定

[VoIP ゲートウェイの優先設定] では、「G3 ファクス対応機と送受信するための設定 (VoIP ゲートウェイ設定)」(→ P. 1-29) で登録した VoIP ゲートウェイに対して、送信条件と優先順位を設定します。送信条件には、送信先 (G3 ファクス対応機) の宛先にあたるファクス番号の先頭数字を指定します。優先順位は、送信条件を複数登録したときに、リストの上から順に決定されます。たとえば、3 つの VoIP ゲートウェイに対して、以下のように設定したとします。

優先順位	接続先	送信条件
1	VoIP ゲートウェイ 1	012
2	VoIP ゲートウェイ 2	013
3	VoIP ゲートウェイ 3	01

この場合、「012」で始まるファクス番号の宛先に送るときは VoIP ゲートウェイ 1 を経由し、「013」のときは VoIP ゲートウェイ 2 を経由することになります。また、「014」や「015」であれば、優先順位 3 の送信条件「01」と一致するため、VoIP ゲートウェイ 3 を経由して送信されます。

重要

- VoIP ゲートウェイを 1 つしか登録していない場合でも、[VoIP ゲートウェイの優先設定] の設定は必要です。
- 宛先のファクス番号が [VoIP ゲートウェイの優先設定] にある送信条件のどれとも一致しない場合は、通信エラーとなり送信できません。

メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- システム管理者 (システム管理部門 ID)
- システムアドミニストレーター/Administrator (SSO-H 使用時)
- デバイスアドミニストレーター /DeviceAdmin (SSO-H 使用時)

1.

Ⓢ (設定／登録) を押す

2.

[ファンクション設定] → [送信] → [ファクス設定] を押す

3.

[VoIP ゲートウェイの優先設定] を押す

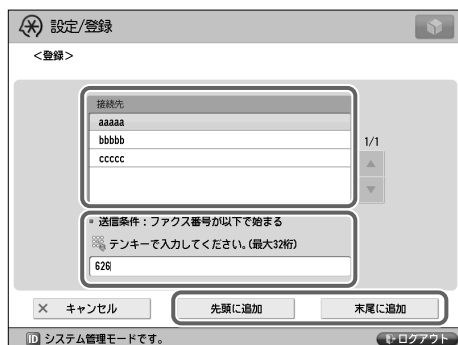
4.

送信条件を設定する

☐ [登録] を押す



☐ 接続先を選択して送信条件を入力→ [先頭に追加] または [末尾に追加] を押す



< 接続先 > :

登録されている VoIP ゲートウェイが表示されます。

登録方法については、「G3 ファクス対応機と送受信するための設定 (VoIP ゲートウェイ設定)」(→ P. 1-29) を参照してください。

< 送信条件 > :

ファクス番号の任意の先頭数値を入力します。

5.

優先順位を設定する

- リストから接続先を選択し、[優先順位を上へ] または [優先順位を下へ] を押して優先順位を変更

設定/登録

<VoIPゲートウェイの優先設定>

優先順位	接続先	送信条件
1	aaaaa	626
2	bbbbbb	621
3	cccccc	612

1/1

優先順位を上へ

優先順位を下へ

登録 詳細/編集 削除

閉じる

ID システム管理モードです。 ログアウト

メモ

送信条件を変更したいときは、リストから選択し、[詳細 / 編集] を押します。削除したいときは、[削除] を押します。

IP ファクスを送信する

IP ファクスの送信のしかたについて説明しています。

IP ファクスを送信するときは、あらかじめアドレス帳に送信宛先を登録しておく、送信のたびに宛先や送信設定を指定する手間が省けて便利です。

通信モードの設定について	2-2
通信モードの種類	2-2
使用できる宛先形式	2-3
IP ファクスの送信宛先を登録する	2-4
IP ファクスを送信する	2-10
アドレス帳に登録した宛先に IP ファクス送信する	2-10
新規に宛先を指定して IP ファクス送信する	2-12
コンピューターから IP ファクスを送信する	2-15

通信モードの設定について

IP ファクスを送信するときや、送信宛先をアドレス帳に登録するときは、接続環境に応じて通信モードを選択する必要があります。適切な通信モードを選択しないと、誤送信や送信エラーの原因になることがあります。

接続環境の詳細については「接続環境に応じた機器の準備」(→ P. 1-5) を参照してください。

通信モードの種類

通信モードには以下の種類があります。



* この画面は、ファクスの宛先指定画面です。IP ファクス拡張キットを有効にすると、通信モードを選択するためのドロップダウンリストが表示されます。

- [IP ファクス (イントラネット)] : イン트라ネット内の IP ファクス対応機に送信する場合に選択します。SIP サーバー使用時も同様です。
- [IP ファクス (NGN)] : NGN を使用して IP ファクス対応機に送信する場合に選択します。
- [IP ファクス (NGN マイナンバー)] : NGN を使用して、追加番号で IP ファクス対応機に送信する場合に選択します。
- [IP ファクス (VoIP ゲートウェイ)] : VoIP ゲートウェイを経由して、G3 ファクス対応機に送信する場合に選択します。
- [G3] : IP ファクスを使わず、G3 ファクスとして送信する場合に選択します。デフォルトでは [G3] が選択されています。

重要

通信モードは、必ず適切に設定してください。たとえば、イントラネット内の IP ファクス対応機に内線番号で送信するときに、誤って通信モードに [IP ファクス (VoIP ゲートウェイ)] を指定したとします。この場合、もし内線番号と一致する外線番号の G3 ファクス対応機が存在すると、通信モードの指定に従って、外線番号の G3 ファクス対応機のほうに送信されてしまいます。送信時やアドレス帳登録時に、通信モードが適切かを必ず確認するとともに、送信前に表示される宛先確認画面 (→アドレス帳に登録した宛先に IP ファクス送信する: P. 2-10) やファクス番号の確認入力画面 (→新規に宛先を指定して IP ファクス送信する: P. 2-12) でも再確認するようにしてください。

使用できる宛先形式

各接続環境で利用できる宛先形式と、対応した通信モードは以下の通りです。

接続環境	使用できる宛先形式	通信モード
イントラネット内送受信	URI アドレス	[IP ファクス (イントラネット)]
イントラネット内送受信 (SIP サーバー使用)	SIP 番号 (相手機が本体 URI として SIP サーバーに登録している番号)	
NGN 送受信 / NGN 送受信 (マイナンバー使用)	ファクス番号	[IP ファクス (NGN)] / [IP ファクス (NGN マイナンバー)]
G3 ファクス対応機への送信 (VoIP ゲートウェイ使用)	ファクス番号	[IP ファクス (VoIP ゲートウェイ)]

IP ファクスの送信宛先を登録する

アドレス帳に IP ファクスの送信宛先を登録します。

重要

- URI アドレスを登録するには、あらかじめ「新規ファクス宛先登録に URI を使用」を ON に設定する必要があります。(→新規ファクス宛先登録に URI を使用する：P. 1-20)
- ジョブ送信履歴から、IP ファクス宛先をアドレス帳に登録することはできません。

1.

[ファクス] → [アドレス帳] を押す



2.

[登録 / 編集] を押す



3.

[新規宛先の登録] を押す



4.

[ファクス] を選択



5.

[名称] を押す

6.

宛先の名称を入力→ [OK] を押す

メモ

宛先の検索をするには、ここで入力したフリガナをもとに検索を行います。検索には、フリガナの1文字目をもとに宛先を限定して並べ替えをする方法や、半角24文字までのカタカナ、記号を使用して宛先を絞り込む方法があります。

7.

登録したい宛先表を選択



8.

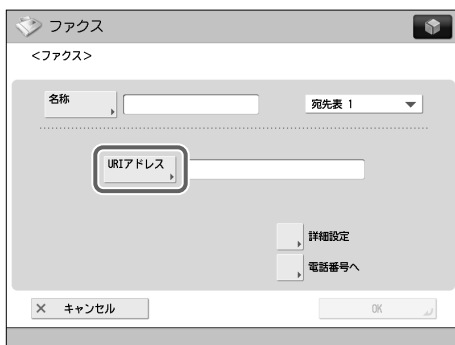
宛先を登録する

URI アドレス：

□ [URI アドレスへ] を押す



□ [URI アドレス] を押す



□ URI アドレスを入力→ [OK] を押す

相手の IP アドレスを入力してください。

メモ

- 半角 120 文字までの、英数字、記号で入力してください。
- 「sip:」 / 「sips:」のプレフィックスは自動的に付与されるので、入力する必要はありません。

- [詳細設定] を押す→必要に応じて各項目を設定→ [OK] を押す

[F コード] / [パスワード] :

[F コード] / [パスワード] を押して、①～⑨、⑩、⑪ (テンキー) で入力します。

[確認入力] を押して、同じパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力する必要はありません。

[バックスペース] を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

スペースを入力するときは [スペース] を押します。

<ECM 送信> :

IP ファクス送信時は、必ず ECM (Error Correction Mode) 送信が有効になります。[OFF] を設定しても、無効にはなりません。

< 通信モード > :

URI アドレスを登録する場合、通信モードは [IP ファクス (イントラネット)] に固定されます。

重要

- F コードは送信先の使用状況に合わせて設定してください。
- F コードを付加して送信する場合は、送信先のファクス機が ITU-T (国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門) 規格に準拠した F コード通信に対応している必要があります。

- [OK] を押す

SIP 番号／ファクス番号：

- ①～⑨、*、#（テンキー）で SIP 番号／ファクス番号を入力

重要

IP ファクスを用いて送信する場合は、ポーズの設定は無効です。

- [詳細設定] を押す→各項目を設定→[OK] を押す

[F コード] / [パスワード]：

[F コード] / [パスワード] を押して、①～⑨、*、#（テンキー）で入力します。

[確認入力] を押して、同じパスワードを入力したあと、[OK] を押します。

相手先が目的の F コードにパスワードを設定していないときは、パスワードを入力する必要はありません。

[バックスペース] を押すと、最後の 1 文字が削除されます。

スペースを入力するときは [スペース] を押します。

< 送信スピード >：

- SIP サーバーを使用してイントラネット内の IP ファクス対応機へ送信する宛先の場合は、設定する必要はありません。送信スピードはネットワーク環境に応じて自動的に決定されます。
- NGN を使用して IP ファクス対応機へ送信する宛先の場合は、設定する必要はありません。SIP セッションの最大使用帯域幅は [NGN 設定] で設定します。(→ NGN 送受信を行うために必要な設定 (NGN 設定)：P. 1-22)
- VoIP ゲートウェイを経由して G3 ファクス対応機へ送信する宛先の場合は、[14400bps] から、[9600bps]、[4800bps] の順にスピードを下げて、調整してください。

< 国際送信 >：

海外送信 (海外のファクス番号を登録しているとき) で、通信エラーがよく発生するときは [国際送信 (1)] を設定してください。

IP ファクス宛先を登録する際は、[国際送信 (2)] / [国際送信 (3)] の設定は無効です。また、送信先がイントラネット内の IP ファクス対応機の場合、[国際送信 (1)] も無効です。

<ECM 送信>:

IP ファクス送信時は、必ず ECM (Error Correction Mode) 送信が有効になります。[OFF] を設定しても、無効にはなりません。

<通信モード>:

- SIP サーバーを使用してイントラネット内の IP ファクス対応機へ送信する宛先の場合は、[IP ファクス (イントラネット)] を選択します。
- NGN を使用して IP ファクス対応機へ送信する宛先の場合は [IP ファクス (NGN)] を選択します。追加番号で送信する場合は [IP ファクス (NGN マイナンバー)] を選択します。
- VoIP ゲートウェイを経由して G3 ファクス対応機へ送信する宛先の場合は、[IP ファクス (VoIP ゲートウェイ)] を選択します。

重要

- F コードを付加して送信するには、送信先のファクス機が ITU-T (国際電気通信連合の通信規格などを制定する部門) 規格に準拠した F コード通信に対応している必要があります。
- VoIP ゲートウェイを経由して G3 ファクス対応機へ送信するためには、あらかじめ「VoIP ゲートウェイの優先設定」(→ P.1-33) の設定が必要です。

メモ

- 通信モードの詳細については、「通信モードの設定について」(→ P.2-2) を参照してください。
- ネットワークの設定がされていない通信モードは選択できません。(→ IP ファクスを使用するために必要な本体の設定: P.1-9)

9.

[OK] を押す

アドレス帳のアクセス番号を管理している場合は、次の操作を行ってください。

- ☐ [次へ] → [アクセス番号] → [アクセス番号] を押す
- ☐ ①～⑨ (テンキー) でアクセス番号を入力 → [確認入力] を押す
- ☐ 同じアクセス番号を入力 → [OK] → [OK] を押す

メモ

アドレス帳のアクセス番号についての詳細は、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

10.

[閉じる] → [OK] を押す

メモ

IP ファクス宛先の登録は、[宛先設定] (設定/登録) の [新規宛先の登録] から行えます。

IP ファクスを送信する

ここでは、ファクス画面から IP ファクスを送信する方法を、以下の 3 つのケースに分けて説明します。

- アドレス帳に登録した宛先に IP ファクス送信する (→ P. 2-10)
- 新規に宛先を指定して IP ファクス送信する (→ P. 2-12)
- コンピュータから IP ファクスを送信する (→ P. 2-15)

重要

ジョブ送信履歴から、IP ファクス宛先を送信宛先に指定することはできません。

アドレス帳に登録した宛先に IP ファクス送信する

アドレス帳に登録した宛先を指定して、IP ファクスを送信します。

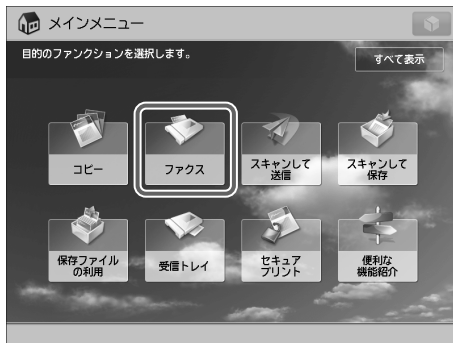
アドレス帳には、宛先だけでなく、送信時に指定が必要な設定項目もすべて登録できるため、アドレス帳から宛先を指定するだけで、IP ファクスを送信することができます。

1.

原稿をセットする

2.

[ファクス] → [アドレス帳] を押す



3.

IP ファクスの送信宛先を選択→ [OK] を押す



重要

- LDAP サーバーから宛先を指定したとき、通信モードは [G3] になります。IP ファックスの宛先として送信する場合は、必ず通信モードを設定してください。
- リモートアドレス帳の IP ファックス宛先を送信先に指定することはできません。

4.

⌚ (スタート) を押す

宛先確認画面が表示されます。宛先と通信モードを確認して、[はい] を押してください。

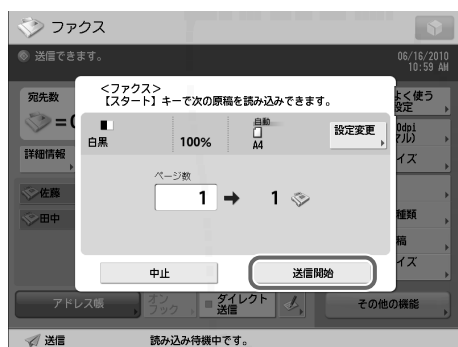


メモ

宛先確認画面を表示させない設定に変更することができます。詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

5.

[送信開始] を押す



新規に宛先を指定して IP ファクス送信する

新規に宛先を入力して、IP ファクスを送信します。

宛先を入力するだけでなく、通信モードなど、送信時に必要な項目を設定する必要があります。

重要

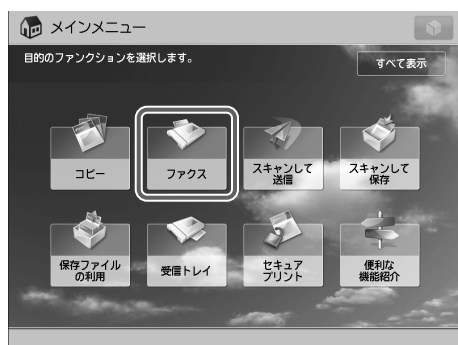
URI アドレスを使用して IP ファクス送信をする場合には、あらかじめアドレス帳に URI アドレスを登録しておく必要があります。新規に URI アドレスを指定して、IP ファクス送信することはできません。(→ IP ファクスの送信宛先を登録する：P. 2-4)

1.

原稿をセットする

2.

「ファクス」を押す



3.

①～⑨、*、# (テンキー) で SIP 番号またはファクス番号を入力



4.

通信モードを選択



ドロップダウンリストを押して、目的の通信モードを選択してください。

重要

VoIP ゲートウェイを経由して G3 ファクス対応機へ送信するためには、あらかじめ「VoIP ゲートウェイの優先設定」(→ P. 1-33) の設定が必要です。

メモ

- 通信モードの詳細については、「通信モードの設定について」(→ P. 2-2) を参照してください。
- ネットワークの設定がされていない通信モードは選択できません。(→ IP ファクスを使用するために必要な本体の設定: P. 1-9)

5.

必要に応じて各項目を設定→ [OK] を押す

6.

⓪ (スタート) を押す

宛先確認画面が表示されます。宛先と通信モードを確認して、[はい] を押してください。



メモ

- 宛先確認画面を表示させない設定に変更することができます。詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。
- [ファクス番号入力時の確認入力] が「ON」に設定されていて、確認入力画面が表示された場合は、宛先確認画面は表示されません。確認入力画面で、宛先と通信モードを再入力してください。(→ファクス番号の入力時に確認入力を行う：P. 3-11)

7.

[送信開始] を押す



コンピューターから IP ファクスを送信する

ファクスドライバーを使って、コンピューターから IP ファクスを送信することができます。送信の手順については、ファクスドライバーのヘルプを参照してください。

重要

- コンピューターから IP ファクスを送信する場合でも、あらかじめ本体の設定が必要です。本書の「IP ファクスを使用するために必要な本体の設定」(→ P. 1-9) を参照してください。
- 最新版のドライバーソフトウェアはキャノンホームページに記載されていきますので、動作環境などをご確認の上、必要に応じてダウンロードしてください。

重要

- IP ファクスのデータの送受信中は、本体の主電源スイッチを切らないでください。送受信ができなくなります。
- IP ファクスの送信後、宛先以外の送信設定が保持される場合があります。
 - 設定を解除したい場合は、 (リセット) を押してください。
 - 宛先の設定は保持されません。その他の設定を保持したまま次のジョブを送信したい場合は、宛先を再度指定してください。

メモ

IP ファクスを使用した手動送信／手動受信はできません。

IP ファクスの各種設定を変更する

IP ファクス拡張キットを有効にすると、本体の設定項目や、インポート／エクスポートできる設定情報が追加／変更されます。

本章では、その変更点について説明しています。

IP ファクス有効時に追加される設定／登録項目一覧	3-2
環境設定：ネットワーク	3-2
ファンクション設定：送信	3-8
宛先設定	3-9
IP ファクス有効時に設定できること	3-10
ファンクション設定：共通	3-10
ファンクション設定：送信	3-10
ファンクション設定：受信／転送	3-12
宛先設定：リモートアドレス帳公開設定	3-12
管理設定：ユーザー管理	3-12
管理設定：データ管理	3-12
設定情報のインポート／エクスポート	3-13
一括インポートが可能な項目一覧表：環境設定	3-14
アドレス帳のエクスポート／インポート	3-17

IP ファクス有効時に追加される設定／登録項目一覧

ここでは、IP ファクス拡張キットを有効にしている場合に追加される項目の一覧を示します。各項目の詳細については、本一覧表中の参照先を確認してください。

環境設定：ネットワーク

TCP/IP 設定：SIP 設定

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の設定	リモート UI による設定	機器情報配信項目
[イントラネット設定]（→イントラネット内で送受信するための設定（イントラネット設定）：P. 1-12）				
< イントラネットを使用 >	ON、OFF	OFF	○	×
< 本体 URI >	本体 URI	（空欄）	○	×
< SIP 受信ポート番号 >	1 ～ 65535	5060	○	×
< SIP 発信ポート >	UDP、TCP	UDP	○	×
	TCP 設定時： ・ SSL を使用： ON、OFF	OFF	○	×
[SIP サーバー設定]				
	常に指定した SIP サーバーを使用する：ON、OFF	OFF	○	×
	SIP サーバーアドレス取得方法：DHCP、DHCPv6	-	○	×

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の 設定	リモート UI に よる設定	機器情報配信 項目
[プライマリーレジストラーサーバー]				
	サーバーアド レス	(空欄)	○	×
	ポート番号：1 ～ 65535	5060	○	×
	ユーザー名	(空欄)	○	×
	パスワード	(空欄)	○	×
[セカンダリーレジストラーサーバー]				
	サーバーアド レス	(空欄)	○	×
	ポート番号：1 ～ 65535	5060	○	×
	ユーザー名	(空欄)	○	×
	パスワード	(空欄)	○	×
[プライマリープロキシサーバー]				
	サーバーアド レス	(空欄)	○	×
	ポート番号：1 ～ 65535	5060	○	×
	ユーザー名	(空欄)	○	×
	パスワード	(空欄)	○	×
[セカンダリープロキシサーバー]				
	サーバーアド レス	(空欄)	○	×
	ポート番号：1 ～ 65535	5060	○	×
	ユーザー名	(空欄)	○	×
	パスワード	(空欄)	○	×

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の設定	リモート UI による設定	機器情報配信項目
[メディア (T.38) 設定]				
	T.38 発信トランスポート： UDPTL、TCP	UDPTL	○	×
	T.38 メディアタイプ： image、application	image	○	×
	T.38 受信ポート番号：1 ～ 65535	49152	○	×
	RTP 受信ポート番号：1024 ～ 65534	5004	○	×
[NGN 設定] (→ NGN 送受信を行うために必要な設定 (NGN 設定) : P. 1-22)				
<NGN を使用>	ON、OFF	OFF	○	×
<SIP 受信ポート番号>	1 ～ 65535	5060	○	×
<NGN ゲートウェイアドレス 取得方法>	DHCP、 DHCPv6	-	○	×
<ゲートウェイアドレス>	NGN ゲート ウェイアドレ ス	(空欄)	○	×
<最大使用帯域幅>	64kbps、 512kbps	64kbps	○	×
<発信者 ID 通知を使用>	ON、OFF	ON	○	×

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の 設定	リモート UI に よる設定	機器情報配信 項目
[回線情報設定]				
	回線情報の自動取得：ON、OFF	ON	○	×
	外線番号 1：本体の電話番号	(空欄)	○	×
	外線番号 2：本体の電話番号	(空欄)	○	×
	内線番号：本体の内線番号	1	○	×
	ドメイン名：ドメイン名／NGN ゲートウェイの IP アドレス	(空欄)	○	×
	ゲートウェイ接続ポート：1～65535	5060	○	×
	ユーザー名：ユーザー名	(空欄)	○	×
	パスワード：パスワード	(空欄)	○	×
[メディア (T.38) 設定]				
	T.38 発信トランスポート：TCP (表示のみ)	-	○	×
	T.38 メディアタイプ：image、application	application	○	×
	T.38 受信ポート番号：1～65535	49152	○	×

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の 設定	リモート UI に よる設定	機器情報配信 項目
[VoIP ゲートウェイ設定] (→ G3 ファクス対応機と送受信するための設定 (VoIP ゲートウェイ設定) : P. 1-29)				
<VoIP ゲートウェイを使用>	ON、OFF	OFF	○	×
< 本体 URI>	本体 URI	(空欄)	○	×
<SIP 受信ポート番号>	1 ～ 65535	5060	○	×
<SIP 発信トランスポート>	UDP、TCP	UDP	○	×
<VoIP ゲートウェイの登録>	登録（接続先、 IP アドレス、 ポート番号）、 編集（接続先、 IP アドレス、 ポート番号）、 削除	-	○	×
[メディア (T.38) 設定]				
	T.38 発信トラ ンスポート： UDPTL（表示の み）	-	○	×
	T.38 メディア タイプ：image （表示のみ）	-	○	×
	T.38 受信ポー ト番号：1 ～ 65535	49152	○	×
	RTP 受信ポー ト番号：1024 ～ 65534	5004	○	×
[SSL 設定] (→ SIP の SSL 暗号化通信で使用する鍵ペアを設定する：P. 1-17)				
< クライアント認証を要求する>	ON、OFF	OFF	○	×
< サーバー証明書を検証する>	ON、OFF	OFF	○	×
	・ ON 設定時： CN を検証する： ON、OFF	OFF	○	×

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の 設定	リモート UI に よる設定	機器情報配信 項目
[鍵と証明書]				
	使用鍵に設定	-	○	×
	証明書詳細情報（バージョン、シリアル No.、署名アルゴリズム、発行先、有効期限開始日、有効期限終了日、発行者、公開鍵、証明書のぼ印、証明書検証）	-	○	×
	使用先を表示（使用中の鍵ペアの用途）	-	○	×

メモ
[SIP 設定] は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。 • システム管理者（システム管理部門 ID） • システムアドミニストレータ / Administrator（SSO-H 使用時） • ネットワークアドミニストレータ / NetworkAdmin（SSO-H 使用時）

ファンクション設定：送信

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の設定	リモート UI による設定	機器情報配信項目
[ファクス設定]				
[回線設定] (→ IP ファクス回線の設定をする：P. 1-10)				
[IP ファクス 1] ～ [IP ファクス 2] *1				
[ユーザー電話番号の登録]	ユーザー電話番号	(空欄)	○	×
[ユーザー略称の登録]	ユーザー略称	(空欄)	○	×
[NGN マイナンバー設定] (→ NGN マイナンバーを有効にする (NGN マイナンバー設定)：P. 1-21)				
	ON、OFF	OFF	○	×
[VoIP ゲートウェイの優先設定] (→ VoIP ゲートウェイの優先設定：P. 1-33)				
	登録 (送信条件、先頭に追加、末尾に追加)、詳細 / 編集、削除、優先順位を上へ、優先順位を下へ	-	○	×
[IP ファクス (NGN) 送信エラー時に G3 で送信] (→ IP ファクス (NGN) 送信エラー時に自動的に G3 ファクスで送信する：P. 1-27)				
	ON、OFF	OFF	○	×

*1 [NGN マイナンバー設定] を「ON」にしている場合に表示される項目です。

メモ

[NGN マイナンバー設定]、[VoIP ゲートウェイの優先設定]、[IP ファクス (NGN) 送信エラー時に G3 で送信] は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- システム管理者 (システム管理部門 ID)
- システムアドミニストレーター/Administrator (SSO-H 使用時)
- デバイスアドミニストレーター /DeviceAdmin (SSO-H 使用時)

宛先設定

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の設定	リモート UI による設定	機器情報配信項目
[宛先の登録] (→ IP ファクスの送信宛先を登録する：P. 2-4)	新規宛先の登録、詳細 / 編集、削除、名称で検索	-	○	○ ^{*1}
[新規ファクス宛先登録に URI を使用] (→新規ファクス宛先登録に URI を使用する：P. 1-20)	ON、OFF	OFF	○	×

*1 詳細 / 編集：×

削除：×

名称で検索：×

メモ

[新規ファクス宛先登録に URI を使用] は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- システム管理者 (システム管理部門 ID)
- システムアドミニストレータ / Administrator (SSO-H 使用時)
- ネットワークアドミニストレータ / NetworkAdmin (SSO-H 使用時)
- デバイスアドミニストレータ / DeviceAdmin (SSO-H 使用時)

IP ファクス有効時に設定できること

ここでは IP ファクス拡張キットを有効にしている場合に、設定 / 登録で設定できる項目の変更点について説明しています。

お使いの本体に付属する取扱説明書をあわせて参照してください。

ファンクション設定：共通

IP ファクス用の排紙トレイを設定する

ファンクション設定＞共通＞排紙動作＞排紙トレイの設定

本体にフィニッシャーなどのオプションを装着しているとき、用紙排出先の各トレイを、どの機能の排紙トレイとして使用するかを設定できます。

IP ファクス拡張キットを有効にしている場合、[ファクス] を設定できるトレイに、[IP ファクス] を設定できます。

ファンクション設定：送信

ファクスのデフォルト画面を変更する

ファンクション設定＞送信＞ファクス設定＞デフォルト画面の変更

メインメニューからファンクションを選択したとき、オートクリアがかかったとき、 (リセット) を押したときなどに、以下のいずれの画面を表示させるかを設定できます。

- [標準]
- [よく使う設定]
- [アドレス帳]

IP ファクス拡張キットを有効にしている場合、[標準] を選択したときに、[回線選択画面を表示] の「ON」「OFF」は設定できません。宛先指定画面が表示されます。

ファクス番号の入力時に確認入力を行う

ファンクション設定＞送信＞ファクス設定＞ファクス番号入力時の確認入力

「ファクス番号入力時の確認入力」が「ON」に設定されている場合、間違った番号の入力を防ぐため、確認入力を行う画面が表示されます。

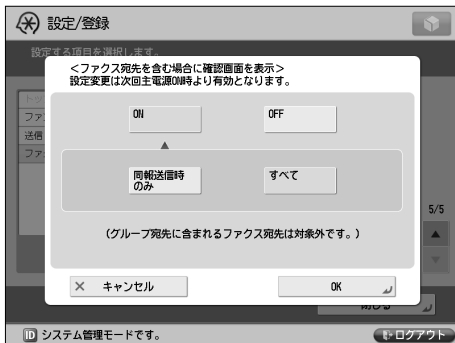
IP ファクス拡張キットを有効にすると、確認入力画面の設定項目に通信モードが追加されます。



宛先にファクスを含む場合に確認画面を表示する

ファンクション設定＞送信＞ファクス設定＞ファクス宛先を含む場合に確認画面を表示

IP ファクス拡張キットを有効にすると、「ファクス宛先を含む場合に確認画面を表示」が自動的に「ON」かつ「すべて」に設定されます。これにより、ファクス／IP ファクスを送信しようとする、宛先を再確認するための確認画面が表示されます。宛先を再確認することで、ファクスの誤送信を防ぐことができます。(→ IP ファクスを送信する：P.2-10)



メモ

この設定は、以下の管理者権限でログインしたときのみ変更できます。

管理者権限の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

- ・システム管理者（システム管理部門 ID）
- ・システムアドミニストレーター/Administrator（SSO-H 使用時）

ファンクション設定：受信／転送

転送の設定をする

ファンクション設定＞受信／転送＞共通設定＞転送設定

転送とは、受信した文書を、ファクスボックスに保存（親展）したり、他の機器やファイルサーバーなどに送信する（中継）機能です。

下記の点が通常のファクスと異なります。

- [転送条件] の＜受信手段：＞に「ファクス：IP ファクス」が追加され、IP ファクスで受信した文書の転送ができるようになります。
- IP ファクスをコンピューターなどに転送する場合、以下のファイル形式に変換することができます。
 - TIFF、PDF、XPS

宛先設定：リモートアドレス帳公開設定

リモートアドレス帳公開設定

宛先設定＞リモートアドレス帳公開設定＞アドレス帳を公開

IP ファクス拡張キットを有効にしている場合、この項目は表示されません。

リモートアドレス帳を外部クライアントに公開することはできません。

管理設定：ユーザー管理

カウント情報の確認／プリント／消去

管理設定＞ユーザー管理＞部門別 ID 管理

各部門ごとに使用したプリント面数のカウント情報を確認してプリントしたり、消去したりできます。IP ファクス拡張キットを有効にしている場合、IP ファクスの受信文書は、部門 ID が空欄（表示なし）のプリント面数に合算されます。

管理設定：データ管理

ハードディスクの不要なデータを完全消去する

管理設定＞データ管理＞ハードディスク完全消去設定

ハードディスク内の不要なデータや削除したデータを完全に消去できます。IP ファクスの送受信データも完全消去されます。

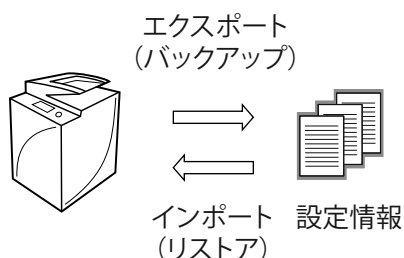
設定情報のインポート／エクスポート

本体に登録されている宛先表や転送設定などの情報をコンピューターにファイルとして保存（エクスポート）したり、エクスポートしたファイルを読み込んでキヤノン複合機に登録（インポート）できます。設定情報のインポート／エクスポートは、リモート UIで行うことができます。詳しくは、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

一括インポートの種類

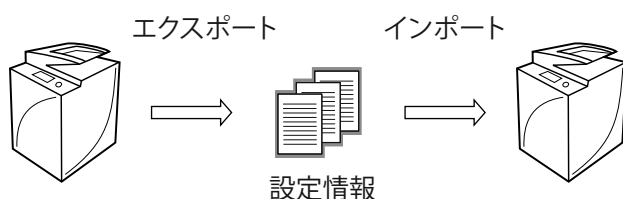
• ケース A：

エクスポートした本体に一括インポートする場合（本体にバックアップ用の設定情報を戻す場合）



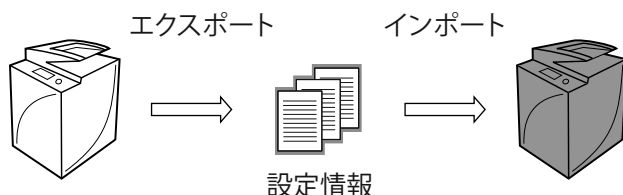
• ケース B：

エクスポートした本体と同じ機種で、別の機体に一括インポートする場合



• ケース C：

エクスポートした本体と別の機種で、本機能に対応している機種に一括インポートする場合



重要

ケース C の場合、インポート先の機種によっては、一括インポートができない場合があります。詳しくはサービス担当者にお問い合わせください。

一括インポートが可能な項目一覧表：環境設定

ここでは、IP ファクス拡張キットを有効にしている場合に追加で一括インポートが可能な項目について記載しています。

環境設定

設定情報			ケース A	ケース B	ケース C	
						
ネット ワーク	TCP/IP 設定					
	SIP 設定	イントラネット設定				
		• イン트라ネットを使用	○	○	○	
		• 本体 URI	○	×	×	
		• SIP 受信ポート番号	○	○	○	
		• SIP 発信トランスポート	○	○	○	
		• SIP サーバー設定				
		- 常に指定した SIP サーバーを使用する	○	○	○	
		- SIP サーバーアドレス取得方法	○	○	○	
		- プライマリーレジ ストラーサーバー、 セカンダリーレジ ストラーサーバー、 プライマリープロ キシサーバー、 セカンダリープロ キシサーバー	サーバー アドレス	○	○	○
			ポート番号	○	○	○
			ユーザー名	○	×	×
			パスワード	○	×	×
• メディア (T.38) 設定		○	○	○		

設定情報			ケース A 	ケース B 	ケース C 
ネット ワーク	SIP 設定	NGN 設定			
		• NGN を使用	○	○	○
		• SIP 受信ポート番号	○	○	○
		• NGN ゲートウェイアドレス取得方法	○	○	○
		• ゲートウェイアドレス	○	○	○
		• 最大使用帯域幅	○	○	○
		• 発信者 ID 通知を使用	○	○	○
		• 回線情報設定			
		- 回線情報の自動取得	○	○	○
		- 外線番号 1	○	×	×
		- 外線番号 2	○	×	×
		- 内線番号	○	×	×
		- ドメイン名	○	○	○
		- ゲートウェイ接続ポート	○	○	○
		- ユーザー名	○	×	×
		- パスワード	○	×	×
		• メディア (T.38) 設定	○	○	○
		VoIP ゲートウェイ設定			
		• VoIP ゲートウェイを使用	○	○	○
		• 本体 URI	○	×	×
		• SIP 受信ポート番号	○	○	○
		• SIP 発信トランスポート	○	○	○
		• VoIP ゲートウェイの登録	○	○	○
		• メディア (T.38) 設定	○	○	○
		SSL 設定	○	○	○

ファンクション設定

設定情報		ケース A	ケース B	ケース C	
					
送信	ファクス設定				
	回線設定	[IP ファクス 1] ~ [IP ファクス 2]	○	×	×
	NGN マイナンバー設定		○	○	○
	VoIP ゲートウェイの優先設定		○	○	○
	IP ファクス (NGN) 送信エラー時に G3 で送信		○	○	○

アドレス帳のエクスポート／インポート

アドレス帳に登録された宛先をエクスポートする場合、ファクス関連の宛先はファクスアドレスと IP ファクスアドレスに自動的に分類されます。

エクスポートした宛先をケース B またはケース C の方法でインポートする場合、インポートできるファクス関連の宛先の種類は、インポート先の機種によって異なります。

○：インポート可能

×：インポート不可

宛先の種類	IP ファクス機能非対応機種	IP ファクス機能対応機種	
		IP ファクス拡張キット無効時	IP ファクス拡張キット有効時
ファクス	○	○	○
IP ファクス	×	×	○

メモ

カスタムメニューや「よく使う設定」に含まれるファクス関連の宛先についても、インポートの条件は上記の表の通りです。

トラブルシューティング

IP ファクスに関連する終了コード／エラーメッセージ／レポートについて記載しています。エラーが発生したときや、各種設定／履歴のレポートを出力したいときは、本章をお読みください。

終了コードを確認する.....	4-2
#1000 番台	4-2
#1300 番台	4-3
#1400 番台	4-3
#1500 番台	4-8
#1600 番台	4-9
エラーメッセージを確認する	4-10
レポートを確認する.....	4-11
ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート	4-11
ファクスマルチ送信結果レポート	4-12
ファクス受信結果レポート	4-12
ファクスボックス受信レポート	4-12
通信管理レポート	4-13
ファクス通信管理レポート	4-13
宛先表リスト	4-14

終了コードを確認する

IP ファクスの送受信が正常に終了していない場合は、エラーの状態を示す終了コードが表示されます。終了コードは、状況確認／中止画面のジョブ履歴の詳細情報や、通信管理レポートで確認できます。ここでは、IP ファクスでエラーが発生したときに表示される終了コードと、その対処方法について説明します。ここに記載されている対処方法を試しても問題が解決しない場合は、ネットワーク環境の管理者にお問い合わせください。

重要

#1300 以降の終了コードは RFC に準拠しています。

メモ

本ガイドに記載されていない終了コードについては、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

#1000 番台

#1000 番台の終了コードが表示されたときは、以下を参考に対処してください。

#1022

原因	IP ファクス送信時に指定した通信モードに対応した SIP 設定が有効になっていません。
処置	SIP 設定を確認してください。(→ IP ファクスを使用するために必要な本体の設定：P. 1-9)
原因 2	通信モードを [IP ファクス (VoIP ゲートウェイ)] に設定して送信したとき、宛先の番号が [VoIP ゲートウェイの優先設定] の条件に一致しませんでした。
処置	[VoIP ゲートウェイの優先設定] を確認してください。(→ VoIP ゲートウェイの優先設定：P. 1-33)

#1042

原因	ネットワークが混雑しているため送信できませんでした。
処置	しばらくたってからもう一度送信してください。

#1097

原因	必要な SIP 設定がなされていないか、本体でエラーが発生しました。
処置	SIP 設定を確認してください。(→ IP ファクスを使用するために必要な本体の設定：P. 1-9)

#1300 番台

#1300 番台の終了コードが表示されたときは、ネットワークの状態または SIP サーバーの設定を確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定) : P. 1-12)

各終了コードの詳細は以下の通りです。

#1300

SIP サーバーからリダイレクトの応答がありました。(SIP のレスポンス 300 Multiple Choices を受信しました。)

#1301

SIP サーバーからリダイレクトの応答がありました。(SIP のレスポンス 301 Moved Permanently を受信しました。)

#1302

SIP サーバーからリダイレクトの応答がありました。(SIP のレスポンス 302 Moved Temporarily を受信しました。)

#1305

送信先との通信に失敗し、プロキシ経由のアクセスを求められました。(SIP のレスポンス 305 Use Proxy を受信しました。)

#1380

SIP サーバーからリダイレクトの応答がありました。(SIP のレスポンス 380 Alternative Service を受信しました。)

#1400 番台

#1400 番台の終了コードが表示されたときは、しばらくたってからもう一度送信すると解決する場合があります。各終了コードの詳細は以下の通りです。

#1400

SIP サーバーから不正なリクエストであるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 400 Bad Request を受信しました。)

#1401

SIP サーバーから認証に失敗したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 401 Unauthorized を受信しました。)

* デバイスと SIP サーバーの認証情報設定が一致しているか確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定) : P. 1-12)

#1402

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 402 Payment Required を受信しました。)

#1403

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 403 Forbidden を受信しました。)

#1404

SIP サーバーから指定した宛先が見つからないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 404 Not Found を受信しました。)

* 宛先の設定を確認してください。(→ IP ファクスを送信する：P. 2-10)

* SIP サーバーの宛先登録状況を確認してください。

#1405

SIP サーバーからアクセスを許可していないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 405 Method Not Allowed を受信しました。)

#1406

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 406 Not Acceptable を受信しました。)

#1407

SIP サーバーからプロキシ認証に失敗したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 407 Proxy Authentication Required を受信しました。)

* 本体と SIP サーバーの認証情報設定が一致しているか確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定)：P. 1-12)

#1408

SIP サーバーからリクエストがタイムアウトしたとの応答がありました。(SIP のレスポンス 408 Request Timeout を受信しました。)

または、SIP サーバーまたは相手先の IP ファクス対応機がネットワーク上に存在していません。(応答なし。)

メモ

- NTT 東日本 /NTT 西日本が提供しているひかり電話を使用している場合は、次の項目を確認してください。
 - LAN ケーブルが抜けていないか
 - 本体がひかり電話対応アダプタに正しく接続されているか
本体の管理者権限のある方が以下の PING 操作で確認してください。
⑨ (設定/登録) → [環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] → [IPv4 設定] → [PING コマンド] を実行してください。
 - コンピューターなどのネットワーク機器から、ひかり電話対応アダプタへの PING が通るか
- * 本体とコンピューターのどちらからもひかり電話対応アダプタに PING が通らない場合、エラーの原因として、ひかり電話対応アダプタを含めたひかり電話側の要因が考えられます。
- 上記を確認したうえで本体の主電源を入れなおし、もう一度 IP ファクスを送信してください。それでも同じエラーが出る場合には、ひかり電話対応アダプタを含めたひかり電話側の要因が考えられますので、契約内容をご確認のうえ、通信会社にお問い合わせください。

<お問い合わせ窓口>

NTT 東日本ひかり電話故障に関するお問い合わせ

光サポートセンタ：0120-000113 (24 時間年中無休)

※午後 5 時～翌日午前 9 時までは、録音にて受付しており順次対応いたします。

※故障修理などの対応時間は午前 9 時～午後 5 時となります。

NTT 西日本ひかり電話故障に関するお問い合わせ

IP カスタマサポート：0120-248995

受付時間：24 時間受付 (一部時間帯は録音受付による対応となります)

※故障修理などの対応については午前 9 時～午後 5 時とさせていただきます。

#1410

SIP サーバーから指定した宛先が見つからないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 410 Gone を受信しました。)

#1413

SIP サーバーから送信データサイズが大きすぎるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 413 Request Entity Too Large を受信しました。)

#1414

SIP サーバーから URI が長すぎるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 414 Request-URI Too Long を受信しました。)

#1415

SIP サーバーからリクエストがサポートされていないメディアタイプを含んでいるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 415 Unsupported Media Type を受信しました。)

#1416

SIP サーバーから URI がサーバーでサポートしていないスキームであるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 416 Unsupported URI Scheme を受信しました。)

#1420

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 420 Bad Extension を受信しました。)

#1421

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 421 Extension Required を受信しました。)

#1422

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 422 Session Interval Too Small を受信しました。)

#1423

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 423 Interval Too Brief を受信しました。)

#1480

SIP サーバーから相手先が通信できない状態であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 480 Temporarily Unavailable を受信しました。)

#1481

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 481 Call/Transaction Does not Exist を受信しました。)

#1482

SIP サーバーからループを検知したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 482 Loop Detected を受信しました。)

#1483

SIP サーバーからホップが多すぎるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 483 Too Many Hops を受信しました。)

#1484

SIP サーバーから URI が不完全であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 484 Address Incomplete を受信しました。)

#1485

SIP サーバーから URI が不明瞭であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 485 Ambiguous を受信しました。)

#1486

SIP サーバーから相手先が通信できない状態であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 486 Busy Here を受信しました。)

#1487

SIP サーバーからリクエストが終了させられたとの応答がありました。(SIP のレスポンス 487 Request Terminated を受信しました。)

#1488

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 488 Not Acceptable Here を受信しました。)

* デバイスと SIP サーバーの SIP 設定およびメディア (T.38) 設定が一致しているか確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定) : P. 1-12)

#1491

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 491 Request Pending を受信しました。)

#1493

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 493 Undecipherable を受信しました。)

#1500 番台

#1500 番台の終了コードが表示されたときは、SIP サーバーの設定を確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定) : P. 1-12)

各終了コードの詳細は以下の通りです。

#1500

SIP サーバーからサーバー側でリクエストの実行を妨げる予測しない状態に遭遇したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 500 Server Internal Error を受信しました。)

#1501

SIP サーバーからサーバー側はリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 501 Not Implemented を受信しました。)

#1502

SIP サーバーから上流のサーバーとの通信に失敗したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 502 Bad Gateway を受信しました。)

#1503

SIP サーバーからサーバー側は現在リクエストを扱うことができないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 503 Service Unavailable を受信しました。)

#1504

SIP サーバーから上流のサーバーとの通信に失敗したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 504 Server Time-out を受信しました。)

#1505

SIP サーバーからサーバー側はリクエストを実行するのに必要な機能をサポートしていないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 505 SIP Version not supported を受信しました。)

#1513

SIP サーバーから送信データサイズが大きすぎるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 513 Message Too Large を受信しました。)

#1600 番台

#1600 番台の終了コードが表示されたときは、ネットワークの状態または SIP サーバーの設定を確認してください。(→イントラネット内で送受信するための設定 (イントラネット設定) : P. 1-12)

各終了コードの詳細は以下の通りです。

#1600

SIP サーバーから相手先が通信できない状態であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 600 Busy Everywhere を受信しました。)

#1603

SIP サーバーから相手先が通信できない状態であるとの応答がありました。(SIP のレスポンス 603 Decline を受信しました。)

#1604

SIP サーバーから指定した宛先が存在しないとの応答がありました。(SIP のレスポンス 604 Does Not Exist Anywhere を受信しました。)

#1606

SIP サーバーからリクエストを拒否したとの応答がありました。(SIP のレスポンス 606 Not Acceptable を受信しました。)

エラーメッセージを確認する

ここでは、IP ファクスでエラーが発生したときに表示されるエラーメッセージと、その対処方法について説明します。エラーメッセージはタッチパネルディスプレイ最下部のステータス表示部や、ポップアップウィンドウに表示されます。

メモ
本書に記載されていないエラーメッセージについては、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

この宛先は使用できません。オンフック時は IP ファクスで送信できません。

原因	オンフック時にワンタッチボタンで IP ファクスを宛先として指定しました。
処置 1	IP ファクス以外の番号を宛先として使用してください。
処置 2	IP ファクスを使用する場合は、オンフックを使用しないでください。

IP ファクス ネットワーク通信エラーが発生しました。

原因	なんらかのネットワークエラーが発生しました。
処置 1	しばらくたってからもう一度送信してください。
処置 2	ネットワーク環境の管理者に確認してください。

IP ファクス ネットワーク混雑のため通信できませんでした。

原因	ネットワーク混雑のため通信できませんでした。
処置 1	しばらくたってからもう一度送信してください。
処置 2	ネットワーク環境の管理者に確認してください。

SIP サーバーへの登録でエラーが発生しました (#nnn)

原因	SIP サーバーとの通信中にエラーが発生しました。(#nnn) には、終了コードが 3 桁の数字で表示されます。
処置 1	(#nnn) に表示される終了コードを確認し、本書の「終了コードを確認する」(→ P. 4-2) を参照してください。 本書を参照する場合は、(#nnn) に表示される 3 桁の頭に 1 を付け、4 桁に読み替えてください。 例：(#nnn) に「408」と表示されたときは、本書の「#1408」の項目を参照してください。
処置 2	SIP サーバーの設定を確認してください。
処置 3	ネットワーク環境の管理者に確認してください。

レポートを確認する

本体からレポートを出力し、設定内容や履歴を確認できます。出力方法はレポートによって異なります。手動で出力するほか、決まった条件を満たした時に自動的に出力するよう設定できるレポートもあります。

ここでは、IP ファクス拡張キットを有効にしたときにプリント内容が変更されるレポートについて説明します。

メモ

本書に記載されていないレポートについては、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

ファクス送信結果レポート／ファクスエラー送信結果レポート

ファクス送信結果レポートは、文書を送信したあとに自動的にプリントされます。送信エラーが発生したときのみプリントされるように設定したり、送信原稿の一部をつけてプリントしたりすることもできます。各設定方法の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更または追加される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 相手先アドレス
送信した相手先のファクス番号が上位 48 桁までプリントされます。
URI アドレスを登録している場合には、ファクス番号の代わりに URI アドレスがプリントされます。

IP ファクス拡張キット有効時に追加される項目：

- 通信モード
通信モードがプリントされます。
 - 【G3】 G3、ECM
 - 【IP ファクス】 IP、IPECM

ファクスマルチ送信結果レポート

ファクスマルチ送信結果レポートは、[ファクス送信結果レポート] を「ON」にしてファクス同報送信を行ったあと、自動的にプリントされます。ファクス送信結果レポートに送信原稿の一部をつけてプリントすることもできます。設定方法の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 未送信相手先
送信が終了していない相手先のファクス番号／URI アドレスと相手先略称がプリントされます。
- 終了相手先
送信が終了した相手先のファクス番号／URI アドレスと相手先略称がプリントされます。
- エラー相手先
送信エラーになった相手先のファクス番号／URI アドレスと相手先略称がプリントされます。

メモ
相手先で正しく受信できたか不明な場合は、"-----" と表示されます。

ファクス受信結果レポート

ファクス受信結果レポートは、自動的にプリントされます。また、受信エラーが発生したときのみ、プリントされるように設定することもできます。設定方法の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更または追加される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 相手先アドレス
送信元で登録されているファクス番号／URI アドレスが上位 48 桁までプリントされます。

IP ファクス拡張キット有効時に追加される項目：

- 通信モード
通信モードがプリントされます。
 - 【G3】 G3、ECM
 - 【IP ファクス】 IP、IPECM

ファクスボックス受信レポート

ファクスボックス内に正常に文書を受信できたかを確認するためのレポートです。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 相手先アドレス
送信元で登録されているファクス番号／URI アドレスが上位 48 桁までプリントされます。

通信管理レポート

通信管理レポートは自動でも手動でもプリントできます。通信管理レポートを自動でプリントする場合、決まった件数の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択できます。また、送信／受信別にプリントすることもできます。詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 通信モード
通信種別と通信サービス名が並べてプリントされます。
 - 通信種別：送信／受信
 - 通信モード：
 - 【IP ファクス】 IP、IPECM
 - 【その他】 FTP、SMB、WebDAV、ボックス、Iファクス、Eメール、G3、G3ECM、G4

ファクス通信管理レポート

ファクス通信管理レポートは、自動でも手動でもプリントできます。ファクス通信管理レポートを自動でプリントする場合は、決まった件数の文書の送信／受信が終了した時点でプリントするか、指定した時刻にプリントするかを選択できます。また、送信／受信別にプリントすることもできます。手動でのプリント方法、設定方法の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 相手先アドレス
通信した相手先の略称とファクス番号がプリントされます。また、Fコードや発信人の名称を指定したときには、ファクス番号の下にプリントされます。
URI アドレスを登録している場合には、ファクス番号の代わりに URI アドレスがプリントされます。
- 通信モード
通信した内容および、通信モードがプリントされます。
 - 送信時：送信、同報送信、タイマー同報送信、転送送信、ダイレクト送信
 - 受信時：ファクスボックス受信、メモリー受信、転送受信、自動受信、手動受信
 - 通信モード：
 - 【G3】 空欄、ECM
 - 【IP ファクス】 IP、IPECM
 - 回線の種類（回線の増設時のみ表示されます）：
 - 【G3】 1、2
 - 【IP ファクス】 1、2

宛先表リスト

宛先表リストは、必要に応じて手動でプリントします。プリント方法、設定方法の詳細については、お使いの本体に付属する取扱説明書を参照してください。

IP ファクス拡張キットを有効にしたときに変更される項目は以下の通りです。

IP ファクス拡張キット有効時に内容が変更される項目：

- 宛先アドレス
手段がファクスの場合、1 行目にファクス番号、F コードがあるときは 2 行目にプリントされます。
URI アドレスを登録している場合には、ファクス番号の代わりに URI アドレスがプリントされます。

付録

5

CHAPTER

仕様	5-2
----------	-----

仕様

項目	仕様
送信原稿サイズ	A3、B4、A4、A4R、B5 ^{*1} 、B5R ^{*2} 、A5 ^{*2} 、A5R ^{*2}
走査線密度（送信）	ノーマルモード：8 ドット／mm x 3.85 ライン／mm ファインモード：8 ドット／mm x 7.7 ライン／mm スーパーファインモード：8 ドット／mm x 15.4 ライン／mm ウルトラファインモード：16 ドット／mm x 15.4 ライン／mm
通信プロトコル	SIP、JT-T.38
適用回線	Ethernet（10base-T/100base-TX/1000base-T）
通信モード	NGN、NGN マイナンバー、イントラネット、VoIP ゲートウェイ

*1 B4 短尺で送信されます。

*2 A4 として送信されます。

消耗品のご注文先

販 売 先

電話番号

担当部門

担 当 者

サービス担当者 連絡先

販 売 店

電話番号

担当部門

担 当 者

Canon

キヤノン株式会社・キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90056

〔受付時間〕 <平日> 9:00～12:00、13:00～17:00
（土日祝日と年末年始弊社休業日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は03-5428-1263をご利用ください。

※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。

※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

Canonホームページ： <http://canon.jp>

